

《あなたはEEEを受け入れますか》スイス・  
ロマンドとマイノリティの言説編制

KABUTO, Hirokuni / 加太, 宏邦

---

(出版者 / Publisher)

法政大学社会学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

社会労働研究 / Society and labour

(巻 / Volume)

40

(号 / Number)

1・2

(開始ページ / Start Page)

289

(終了ページ / End Page)

352

(発行年 / Year)

1993-07

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00003182>

# 《あなたは EEE を受け入れますか》

— スイス・ロマンドとマイノリティの言説編制 —

加 太 宏 邦

- 
- 1 前書きと基礎的与件
  - 2 開票直後の記事
  - 3 否決後の断片記事
  - 4 投票前の断片記事
  - 5 ノート
- 

## 1 前書きと基礎的与件

このノートは〈欧州経済領域〉加盟批准の是非を問うスイス国民投票をめぐるスイス・フランス語圏のいくつかの新聞・週刊誌の報道記事を詳細に採録したものである。スイス・ロマンド地方において報道された対象と報道行為＝主体の共鳴関係の場が、どのように、またどのようなスイス・ロマンド人のマイノリティの心性を形成していくのかを検証することが目的である。

□以下の文中の略号

AELE : Association européenne de libre-échange 欧州自由貿易連合 (EFTA)

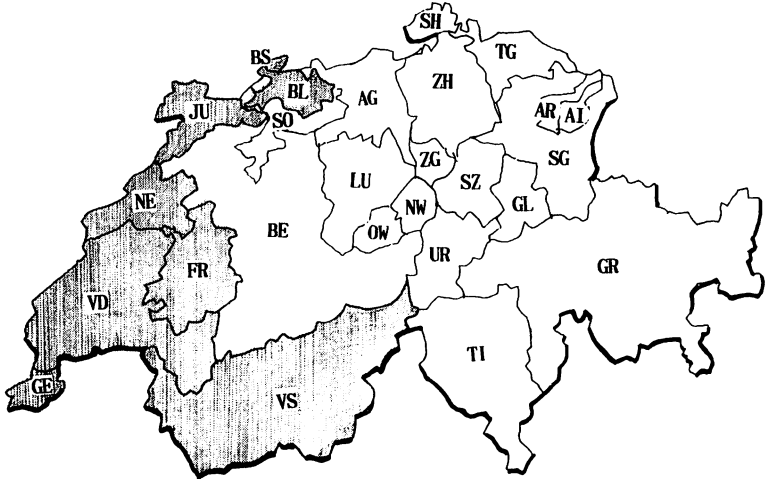
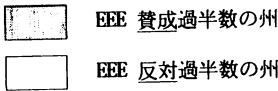
CE : Communautés européennes 欧州共同体 (EC)

EEE : Espace économique européen 欧州経済領域 (EEA)

□背景について（1）

1. スイスは CE には未加入， AELE に加入。
2. 1992.5.18， EC 加盟交渉を開始する方針の閣議決定。国民議会では 125 対 58， 全州議会では 37 対 2 で賛成可決。
3. CE と AELE を結ぶ EEE への参加は CE 加盟への前提となるとして 1992.5.2 にポルトガルで CE 12 カ国と AELE 7 カ国の外相が EEE 創立のための協定に調印。（EEE は， CE のルールをベースに資本， 製品， サービス， 労働力の自由流通を保証するのを主たる狙いとしている。農産物貿易については， 将来的に漸次自由化へむかう予定。）
4. 1992 年 12 月 6 日に， この批准の是非を問うて， 国民投票が行われた。

図-1



あなたは EEE を受け入れますか

その結果、批准は否決された。なお、投票は正午までで、集計結果は即日発表 [表-1。図-1]。7日付け朝刊で詳細が報道された。

表-1 EEE 加盟批准を問う国民投票

略号		賛成率%	投票率%
AR	アッペンツェル・アウサーローデン州	36.8	82.0
AI	アッペンツェル・インナーローデン州	29.1	84.7
AG	アールガウ州	40.0	76.2
BS	バーゼル・シュタット州	55.5	74.6
BL	バーゼル・ラント州	53.2	80.1
BE	ベルン州	47.6	78.2
GL	グラールス州	32.0	79.7
GR	グラウビュンデン州	32.5	75.6
LU	ルツェルン州	39.4	80.9
NW	ニートヴァルデン州	33.9	84.1
OW	オブヴァルデン州	28.2	81.8
UR	ウーリ州	25.5	78.4
SH	シャフハウゼン州	38.6	85.5
SZ	シュヴィーツ州	26.7	83.2
SO	ゾロトゥルン州	42.6	84.3
SG	ザンクト・ガレン州	38.5	81.5
TG	トゥールガウ州	36.4	80.2
ZG	ツーク州	43.9	87.2
ZH	チューリヒ州	48.5	80.5
TI	ティチーノ州	38.5	76.2
◇FR	フリブール州	64.9	76.4
◇GE	ジュネーヴ州	78.2	74.1
◇JU	ジュラ州	77.2	75.6
◇NE	ヌシャテル州	80.0	74.8
◇VS	ヴァレー州	55.9	87.2
◇VD	ヴォー州	78.4	72.7
	全 国	49.7	78.3

\*◇印はスイス・ロマンド州。ただしフリブール州の約1/3とヴァレー州の約1/2はドイツ語圏。

5.1993.3.8. ブリュッセルで開催された外相理事会で CE と AELE との統合市場 EEE 創設協定からスイスを除く修正協定を承認。7月1日をめどに 18 カ国で発足の予定。

## □背景について（２）

・スイスにとっては AELE や EEE については当面経済統合に限られるが拡大 CE となると中立、軍事、直接民主制、司法、外国人居住、連邦制度などが問題として浮上する。

・スイスにおける EEE 推進役：フェルベル René Felber（大統領）とドラミュラ Jean-Pascal Delamuraz（外務・経済担当相）

・反対の中心人物：ブロッハー Chritoph Blocher とシュヴァアラ Martin Chevallaz

・国会には、上述のように「国民議会」（日本の衆議院にあたる。定足数 200）と「全州議会」（人口にかかわらず各州から 2 名の代議員がでる。定足数 46）の 2 院あるがここでは区別をせず「国会」ならびに

表-2 スイス政党名／略号／勢力分布

（26 州の代議士の数の総計 1992 年）

キリスト教民主党	PDC (Parti démocrate-chrétien)	808	27 %
急進民主党	PRD (Parti radical-démocratique)	775	26 %
社会党	PS (Parti socialiste)	546	18 %
中央民主連合	UDC (Union démocrate du centre)	299	10 %
緑の党	VERT(vert)	156	5 %
自由党	PLS (Parti libéral suisse)	116	3 %
ドライバ－党	PA (Parti des automobilistes)	47	1.5 %
国民福音党	PEP (Parti évangélique populaire)	40	1.1 %
民主党	PDS (Parti démocratique suisse)*1	34	1 %
独立連盟	AdI (Alliance des indépendants)	33	1 %
労働党	PdT (Parti du travail)	18	0.6 %
(その他)*2		129	4 %
		計	3001

\* 1) 旧 Action nationale (極右)

\* 2) 微小政党でありながら、今回の投票で激しく反対のキャンペーンをほったものとしては PES(Parti écologiste suisse) エコロジスト党と LT(Lega dei Ticinesi) チィチーノ州連盟がある。

あなたは EEE を受け入れますか

「国会議員」と訳した。

・スイス連邦では閣僚は7人（与党、野党の区別なく、上位4政党に2対2対2対1で配分。大統領はその中から互選で選ばれる。任期は1年。連続再選は禁止されている。président は大統領と訳すより議長としたほうがよいぐらいの地位である。

・EEEに対する各政党〔表-2〕の対応は、概ね大政党が賛成（ただしUDCは反対）、中小政党は反対だった。しかし政党员や政党支持者が党の決議に縛られないため、多様な判断が生じた。

・言語による人口比。ドイツ語 73.5%、フランス語 20.1%イタリア語 4.5%、レート・ロマンシュ語 0.9%、その他 1%。本稿ではドイツ語地域はドイツ語圏と呼び、フランス語地域はフランス語圏またはスイス・ロマンドと呼ぶ。またイタリア語圏はティチーノ州に限られる。

閲覧新聞、週刊誌についてはそのつどタイトルをあげた。投票日以降と以前について主として用いた Journal de Genève et Gazette de Lausanne は JG と略す。同紙はクオリティ紙であるが、その他は概ね大衆紙である。またこのいずれもがフランス語圏の出版である。言うまでもないが、スイスには全国紙は存在しない。おおよそ3万から数万部発行の〈地方紙〉である。

文中の [ ] ならびに\*印の注記は採録者。

## 2 開票直後の記事

24 HEURES 紙 1992.12.7.

1面

■見出し：EEE：亀裂

■漫画〔図-2〕

〔スイス新地形図：アルプスが移動し、独仏語圏境に居すわり、スイス

がヨーロッパという海の孤島になった図。レーシュティ＝ドイツ語圏の郷土料理＝ドイツ語圏の象徴が最高峰の名前になっている]

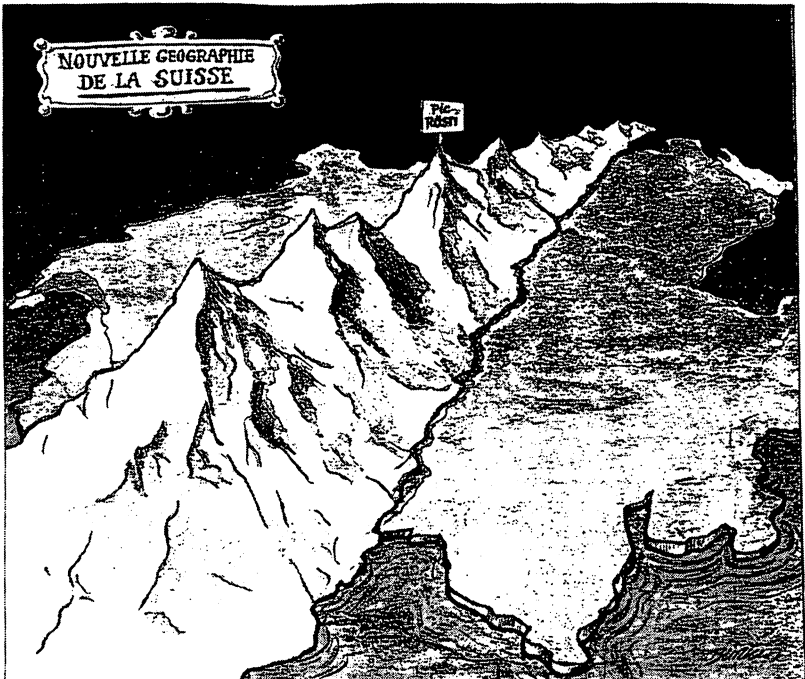
■スイス・ロマンド+バーゼル（2州）が賛成・独仏語圏の溝深まる。

- ・投票率 1947 以来の新記録 78.3 %
- ・Felber と Delamuraz の失望の大きさ。
- ・精神的・制度的危機の時代に入った。

■署名論評 (Michel Perrin) :

- ・タイトル：眩暈のするような溝
- ・ヨーロッパの一員になりそこねたスイス・ロマンドの失望。経済的危機だけでなく精神的、制度的意味で危機。しかし、これで、いままで、印象でのみ語られていた語圏の対立・外部世界の理解の不可能性が明確になったのはよいことである。なぜドイツ語圏はこんなに硬直している

図-2



あなたは EEE を受け入れますか

のか。合理的判断というより〈スイスの魂を失う〉というきわめて神話  
的な恐れではないのか。かくて〈魂〉はアルプスの氷河に凍り漬けて保  
存されるという結果になった。加盟を推進してきた連邦当局も州当局も  
これで白けてしまった。もう一つの溝はドイツ語圏での加盟賛成者（政  
治的指導層）と反対者（大衆）のそれ。スイス・ロマンドでは双方が賛  
成だったが。

□ 2面 = 3面

■ ぶち抜き見出し：ドイツ語圏がフランス語圏にノンを押しつける

■ 2面：見出し：影響力の重くのしかかる決定

■ 3面：見出し：全フランス語圏州は〈ウイ〉と言った。

[州区分地図と投票結果・図1, 表1]

・ 反対派の急先鋒クリストフ・ブロッハーの地元マイレン村では EEE  
賛成が僅差（50.8%）で勝ち、彼の会社エムス化学のある、グラウビ  
ュンデン州のドマツト・エムス村では圧倒的に否決。

・ 記録：シャフハウゼン州グントマディンゲン村では投票率 100%とい  
う記録。146人の有権者全員投票。121対25で否決。

□ 2面

■ 見出し：内閣の総辞職はない。

■ 小見出し：ブロッハー〈祖国の集まったヨーロッパ〉を主張

・ EEE 反対の急先鋒ブロッハー（UDC）は「これでヨーロッパと世界  
の中でのスイスの経済的・政治的立場の基本がかたまつた。これを勝利  
とはかんがえてはいない。サッカーの試合じゃないんだから。ドイツや  
オーストリアに国境を接するシャフハウゼン州やグラウビュンデン州で  
は大きく反対とでたが、これはドイツの脅威をよく表している。スイス  
・ロマンドではこの条約を詳しく議論していないのじゃないか。よく研  
究すればノンであることはわかるよ。溝は言語圏のより、大衆と政府の



それだ。もちろん政府がまちがっている。将来？ ヨーロッパの各国とよい関係を持つことだ。これはドゴールが言ったことだが〈祖国の集まったヨーロッパ〉だ。

■ジャン・サリス Jean Salis は失望を表明。ブロッハーはスイスを分断した。来年は大変な年になるだろう。内閣はこのままで、再度解決策を模索してほしい。いずれにしても、この投票結果は誰にとっても勝利でなく万人にとって大変な困惑の種となった。しかし、だからといって、過剰反応をしてはいけない。

#### ■各党の反応

・ PRD 党：否決に遺憾の意を表明。経済危機が深刻になるだろう。反対者は大きな責任をおわねばならない。彼らは反対のキャンペーンをはるばかりで、否決された場合の経済施策をなんら明らかにしていなかったからだ。

・ PS 党：この結果はヨーロッパへの統合の絶対的な反対の意志表明とはとれない。AELE や CE と交渉を新たに行うべき。PRD 党と PDC 党と共闘の形で社会混乱を避けるべく努力をする。

・ PDC 党：否決を遺憾に思う。経済の活性化に直ちにとりかからねばならない。

・ UDC 党：与党ではわが党は EEE 反対をした唯一の党であるが、この結果に満足している。主権者たる国民はこの一方的なそして非民主的な協約を拒否してくれた。今やスイスの経済を建て直し正常化することが急務である。

・ PES 党：この結果は、ヨーロッパの拒否ではなく、悪しき協約の拒否なのだ。結果を歓迎する。

・ PA 党：真向から EEE 加盟反対を表明していたわが党は CE 加盟の要求も白紙にすべきだと政府にせまる。スイス経済を改善するためと言っても環境悪化に関係しそうな施策は一切やめるべきだ。

□ 3 面下半分見出し

言語によって差の出た投票結果

小見出し：「7州のみ（6州+半州×2）がウイに投ずる。すなわちスイス・ロマンド全てとバーゼル（シュタット州・ラント州）。〈ナインザーガー Neinsager〉は16。ドイツ語圏とティチーノ州（イタリア語圏）とグラウビュンデン州（レートロマンシュ語圏）」

■ 署名評論：Alain Pichard

- ・ラテン精神とゲルマン精神の対立ではなかった。（ティチーノ州，グラウビュンデン州を見よ）
- ・フランスとの地形的距離が差を生み出した。
- ・ヴァレー州ドイツ語圏（上ヴァレー）ウイ：37%：かなり低い  
ヴァレー州フランス語圏（下ヴァレー）ウイ：64%
- ・フリブール州はフランス語が支配的で，完全ドイツ語地区（Singin 行政区）のみウイが47%
- ・ベルン州の南ジュラ〔フランス語圏〕では66%がウイ。
- ・ヌシャテル州：伝統的に社会主義的国際主義の支配的な州は記録なウイ
- ・一方内陸部（南ジュラ，フリブール州の農村部，ヴァレー州）はやや控えめなウイ
- ・孤状ジュラ地帯（ヌシャテル州，ジュラ州，バーゼル州）はいわゆる進歩地帯。
- ・都市化の進んだ地区と農村地区の対比もあった。バーゼル州の例チューリヒ，ベルン，ルツェルン，ヴィンタートゥールの4都市は賛成がうわまった。
- ・スイス・ロマンドは現在でもマイノリティだが，その身の処し方になれているのでEEEでもそれほど不安がない。ドイツ語圏はこんどはマイノリティになる不安がある。
- ・フランスとスイス・ロマンドは融和している。ドイツとイタリアはナ

チとファシストがあったためドイツ語圏、イタリア語圏とにはしこりがある。ドイツを排除する姿勢をみせることがアイデンティティ表明につながる。イタリア語圏にはイタリアの政治への不安があって、それがCEに投影するかたちでみられる。

- ・フランス革命時代の汎ヨーロッパ精神がフランス語圏には浸透したがドイツ語圏はむしろこれに抵抗したいきさつもある。

- ・グラウビュンデン州，アッペンツェル州，中央スイス（シュヴィーツ州，ウーリー州，ニートヴァルデン州，ウンターヴァルデン州）は山岳の強力な孤立主義。かつてのハプスブルグ家への抵抗の主軸が今また抵抗のチャンピオン。全コミューンでノンが過半数になったのはこのグラウビュンデン州とシュヴィーツ州とニートヴァルデン州，ウンターヴァルデン州。とくにグラウビュンデン州のLü村とMüstair村では全員否決票。

- ・ティチーノ州の否決は一つには〈ティチーノ州連盟 LEGA〉の強い影響力とおそらくイタリアとの国境がはずれると、瞬時にしてスイスでなくなる可能性をもっている余りにも小さい語圏であるということからくる危機意識だろう。ティチーノ州は基本的には都市型の州で、しかもかつて、国連加盟への国民投票では、この州は賛成率では全国で2番だったことからみてもけっして保守という地区ではないからである。

■史上三位の高い投票率。（過去最高は富裕税に関する投票〔結果否決〕の87.3% 1992年）

■コメント

- ・ Jean Ziegler（ジュネーブ州出身 PS 党議員）

以後、外国排斥の右翼支配の世の中になる。議会は解散すべき

- ・ Henri Schwery（ヴァレー州出身枢機卿）

両語圏の溝を深刻なものにとらないようにしてほしい。我々には700年の民主主義の英知がある。

- ・ Roland Béguelin（ジュラ連合代表）

あなたは EEE を受け入れますか

スイスにはもう統一性はない。ドイツ語圏の後進性につきあわないでスイス・ロマンドは独自に進もう。

□ 5 面

■見出し：スイスを投売りするなどとんでもない！

対談：共通項はスイス・ロマンドとドイツ語圏の対話が必要という点のみ。でもどうやって？

■ Gilles Petitpierre（EEE 賛成派）ジュネーヴ出身の P R D 党議員：賛成派の代表の一人。

■ Jean-Pierre Bonny（EEE 反対派）ベルン出身の P R D 党議員：反対の急先鋒の一人。

編集部：いま言いたいことは？

GP：失望した。しかし自棄になってスイスを投売りすることだけではないでくれと言いたい。

編集部：スイス・ロマンドの賛成票をどうみているか。

JPB：自分が勝利者だとは思っていないし、問題が多いことも承知している。しかし、スイス・ロマンドだけがマイノリティではない。グラウビュンデン州やティチーノ州はもっとそうでありながら反対票を投じた。EEE 加盟で不利益を被るからだ。もし賛成が勝てば、彼らのマイノリティ性の問題がやはり生じるだろう。

編集部：両言語の違いがスイス観の違いを浮き彫りにしたが。

GP：両陣営が非難しあうのはまちがいだ。スイスの文化的多様性はいわば慢性病みたいなものである。そういう中で、文化を発展させてきたのは周知の事実だ。対話をする事、これは我々政治家の役目でもある。ドイツ語圏では政治家と市民の乖離があるので対話が必要だ。スイス・ロマンドではこの点では問題ない。

JPB：たしかに、それは当方では重大な問題点である。スイス・ロマンドでは市民が政治家を信頼しているが、ドイツ語圏ではより批判的であ

る。独仏対話は賛成である。

GP：ジュネーヴでは、別に政治家がリードしたのではない。市民が率先してウイに票を投じたのだ。だからこそ市民の絶望は深い。

編集部：ドイツ語圏は分離独行ができるか。

JPB：とんでもない。スイスのアイデンティティは多言語にこそあると考えている。

編集部：Jean Ziegler などが解散を主張しているが。

GP：ピントはずれで無意味だ。議会はそもそも多様な党派で構成されている。

JPB：そのとおり。我々反対派には右から左まで、あるいは緑の党までの支持層があるかジグレル氏はどうか。ここは平静になるべきだ。

編集部：CE や EEE との次のステップは。

GP：私は国会に信頼をおいている。損害の最小の内に御破算で出直すことだ。

JPB：EEE がスイスとの関係をどうするか考えればよい。また CE 加盟については交渉をすることに反対はしない。

編集部：これだけ EEE 加盟反対運動をしてきて、交渉には反対しないというのは？

JPB：CE に対する態度は議会の問題だ。全面決裂などは考えていない。

GP：しかしそういう二股は国際信用上まずいのではないか。EEE には大反対で、CE 加盟は交渉するというのは。

■〈スイスは鎖国するわけではない〉と Martin Chevallaz 氏は語る。

・スイス・ロマンド内での反対派の代表シュヴァラ氏は開放策に何もかも反対するわけではないが現行のヨーロッパ創設案には反対だ、という。「投票結果に満足しているがスイス・ロマンドの数字には失望している。しかし、それにもヴァレー州の 44.1% からヌシャテル州の 20% までニュアンスがあった。失望はいろいろあったろうが、大袈裟に騒ぎ立てることはない。べつにスイスがこれで鎖国に入るわけではない。私は信念

あなたは EEE を受け入れますか

で反対したのであって個人的利害でそうしたのではない。ヨーロッパ建設は長期にわたって継続されていくべきもので、今決定するものではない。政府も CE 加盟は引っ込めるべきだ」

■〈スイスを破壊するな〉と Guy-Olivier Segond は語る

ジュネーヴ出身の国会議員スゴン氏は、この反対で一番被害をこうむるのは農民である、と述べた。19 カ国が一丸となって農業を守ろうとしているときにスイスは一国でガット内で孤軍奮闘しなくてはならなくなるのだ。農業は潰滅するだろう。すぐに、我々と似た国（スウェーデンやオーストリアなど）と共に CE への交渉を始めなくてはならない。

■ EEE へのノンは連帯への拒否ならびにエゴイズムの勝利だ（青少年活動会議）

■ 対外問題はこれで解決したかもしれないが国内問題を惹起してしまった。（Laurent Rebeaud, ジュネーヴ出身国会議員）

□ 7 面

■ 見出し：ヨーロッパはスイス抜きで前進するだろう

・ EEE の外務担当のオランダの Frans Andriessen 氏、ブリュッセルの本部で語る「AELE も計画を進めていこう。EEE 計画は 2～3 カ月遅れるだろうが実施されるだろう。スイスは孤立する」

・ [上記国際機関、オーストリア、ノルウェー、リヒテンシュタイン\*、スウェーデンの大臣など当局のコメント。略]

\*リヒテンシュタインはスイスの否決にかかわらず EEE 批准。ベルンで今後の外交条約などについての複雑な交渉に入った。後出 Le Matin 1992.12.14.

□ 13 面（ヴォー州版）

■ 見出し：全国一低い投票率（72.2%）、しかし賛成率（78.4%）は銀メダル（一位ヌシャテル州）

・ [州内の各地の詳細な票の分析。要約]

各行政管区 (district) はいずれも賛成が過半数。バイエルヌ管区の 70.1 %が最低。モルジュ管区の 82 %が最高。ただし一つ例外。ペイ=ダノオ管区は賛成 53.6 %。理由分析；ヴォー州随一のアルプス地帯，かつドイツ語圏に接している。西下して都市部にはいると賛成票は増大。コミューヌ単位でいくと 5 つの村で反対が過半数になっている。僅差で賛成がうわまわったのが約 20 町村。

■経済担当の国会議員 Jacque Martin 氏，ヴォー州の票についてと結果，州内に分断がなかったことに満足。

□ 15 面 [ローザンヌ市版]

■見出し：ローザンヌ市の人は 10 人に 8 人がヨーロッパ統合のために闘った。

・ヴォー州の州都ローザンヌは 38,461 対 9,961 で賛成票を投じた。

・市長のイヴェット・イエーツギ女史は結果に満足。未来にも希望を失っていない。各町内での集計結果でも高得票率であった。「これはローザンヌの人の開けた精神と国際性を示すものだ。いっぽう，しかしドイツ語圏との分断を騒ぎ立ててはならない」

・市会議員の Jacques Lienhard 氏は「この賛成率の高さからみても，我々はフランス人より開けている」

・市会議員の Daniel Brélaz 氏は「ドイツ語圏の反対票はドイツに対する警戒心だ。イタリア語圏のそれはイタリアに取り込まれる警戒心からだ」

・「精神的バルカン化を避けるためにも対話が必要」(ローザンヌ PRD 党代表 Philippe Vuillemin)

・スイスが周辺に取り残されるのは目に見えて明らかで，これは極めて絶望的状态だ。イメージーションの欠落と新世界への適合力の貧困を表している重大な否定的態度の結果なのだ。スイスは自閉症と沈黙と無気力を選んだ。わたしはこの情ない結果に恥ずかしい」(ジャック・シェ

あなたは EEE を受け入れますか

セ\*)

\* ゴンクール賞作家

・ [その他, 経済団体会長などのコメントが 4 つ。略]

48 面

■ 市民のコメント 7 つ [要約]

- ・ 失望だが予想されたこと。
- ・ エゴイズムの現れ。
- ・ ものすごく失望。ドイツ語圏の人は臆病者。
- ・ 若い世代にとっては失望。
- ・ 自分では賛成は当然で何の疑問も持っていなかったのに……。
- ・ 恐ろしいことだ。
- ・ いい加減にしてほしい。ドイツ語圏から分離すべき。

L'HEBDO 紙 (週刊誌) 号外 1992.12.7

1 面

■ 見出し: ドラミュラ連邦大臣「スイスにとって暗い日曜日だ」

・ フランス語圏が賛成, ドイツ語圏が EEE を追い払った。問われるスイス。

賛成 1,763,016 票 49.7 % 7 州

反対 1,786,121 票 50.3 % 16 州

・ 3 つの断層

- ① フランス語圏とドイツ語圏
- ② ドイツ語圏での政治的指導者と市民
- ③ スイス観: 伝統志向型と未来志向型

・ ドイツ語圏, フランス語圏の断層はバイリンガル州でも見られた。す



なわちヴァレー州では賛成 55.8%だが上ヴァレーでは全行政管区ノンが上回った。フリブール州では完全にドイツ語圏に入っている Singin 地区を除いては賛成多数。ベルン州でも同じ [南ジュラでのみ賛成多数]

- ・連邦政府ではドラミュラ氏が「国民は間違っている」と述べ、辞職の意志はないことを示した。

- ・憲法第 9 条には「各州が独自に外国と国際条約を結ぶことを認める」文言があるのだから、スイス・ロマンドの州だけで、ブリュッセルと交渉を始めればよい、という意見も聞かれた。

- ・8カ月前連邦政府が決定した CE 加盟の交渉を、続けるべきか、引き下げるべきか微妙な段階に入った。

- ・デンマークはマーストリヒト条約否決。AELE はスイスのジュネーヴで開催されるが主催国になるスイスが EEE を否決している。ヨーロッパ統合がかなり複雑になった。ただ、CE の副議長の Andriessen 氏は「EEE はスイスと単独協定を結ぶことはないだろう」と明言している。

- ・ティチーノ州の否決は意外だが、この州にとっては「外国」はイタリアで、このイタリアの怪しげで汚い社会に浸食されるのはごめんだという気持ちが強いのだろう。

#### ■社説 (Jean-Claude Péclet 署名)

タイトル：最悪の勝利

[要旨]：プロッハーの〈愛国主義〉が勝利したが、国は分断され連邦議会と政府に後始末は回され、最悪の結果となった。この分断は大変な大ききで、もはや深淵になった。ヨーロッパ主義はそもそもスイス・ロマンドで生まれ、スイス・ロマンド出身の二人の閣僚によってすすめられたものだ。ドイツ語圏では政治的指導層・経営層・メディアと市民との分断も大きい。この市民層は井の中の蛙だ。内閣は辞職すべきでない。なぜならスイス丸が難破しようとしているときに船長たちが逃げ出すべきではないからである。もう一度建て直しを確認し、緊急に再出発をす

あなたは EEE を受け入れますか

べきである。また一方、せめてフランス語圏でも力を合わせて、政府をバックアップする形で努力を続けなくてはならない。

□ 2 面

■見出し：いかにして経済を建て直すか

■見出し：新たな闘志を沸き立たせる若者達

[投票結果の数字と分布地図]

[新たな情報のみ拾う]

・グラウビュンデン州では 213 の市町村全部で否決。中央スイスの 6 州では 186 市町村の内 7 市でのみ賛成過半数とならなかった。反対派の急先鋒ブロッハー氏の地元 Meilen 村では反対票が 49.2 % で、賛成の 50.2 % に負けるという皮肉な結果となった。

賛成率

スイス・ロマンド	72.2 %
ドイツ語圏	43.8 %
イタリア語圏	38.5 %
全国	49.7 %

□ 3 面

■見出し：アッペンツェル州\*の勝利

「だれも我らに掟を押しつけることはできない」

・ドイツ語圏の心であるアッペンツェル州は真剣に、切実な思いで投票した。否決のおかげで、その恐怖心を御祓できたし、Waldstätten [スイスの発祥の中央スイスの諸州] の反逆に援軍を送ることもできた。

・外は雪と霧の寒い悪天候にもかかわらず人々は活気づいていた。「外国人に恐怖を覚えます。失業した外国人が私たちの国をうろつかれることに恐怖を覚えます。問題がすでに多過ぎます。」(25 歳女性)

・ドイツのテレビが暗い映像ばかり流しすぎた。東欧の危機、経済の悪化、極右の台頭など。「〈ヨーロッパ〉は私たちの美しい国を破壊する可能性があるのです」(83 歳男性)

・「将来は厳しくなるだろう、これはたしかだ。しかし〈ヨーロッパ〉に加盟すればもっと悪くなる」(23歳男性) 酒場にいたこの23歳の青年は、定年退職の70歳の老人と完全に波長が合っている。

・「スイス・ロマンドの人達に反対して票を投じたと思われては困るよ。僕たちは彼らが好きだよ。ユーゴスラビアと一緒にしないでよ。スイス人は一つのテーブルに着いて共通の未来について議論できるよ。国鉄とか郵便局とかミグロ [全国チェーンのスーパー] という繋がりがあらし」(郵便局員)

■ [写真：テレビにドイツ語圏の人らしい人物が写り、「俺たちはフランス語圏なしでやっていける」と言っているスーパーが出ている]

・農民票が指導的だったというのがここアッペンツェル・アウサーローデン州の農業従事者の人口比率は9%なのだ。影響力が一番強かったのは〈緑の党〉で、徹底してブリュッセルの支配 [CE] を警戒する情報を流した。それに加えて、ブロッハーのキャンペーン、ドライバー党の宣伝、ドイツの脅威が力あった。

・アッペンツェル州では土地への一体感が理屈抜きに絶対である伝統があり、今もそれは揺らいでいない。「だれも我らに掟を押しつけることはできない」である。

\*アッペンツェル州はスイスの中で〈最も保守的な地域〉として知られている。ランツゲマインデという直接民主制を残していて、昨年までは女性に参政権がなかった。

## ■控えめな勝利

・スイス・ロマンドの反対者の中心人物 Martin Chevallaz 氏 (ASIN = スイス独立・中立行動委員会のフランス語圏代表) は喜びの声を発するでもなし、笑みを浮かべるでもなし、静かであった。「このキャンペーンで私が終始一貫して言い続けてきたことは、この投票には勝者も敗者もない、ということだった。コンセンサスを得るこの政治方式の矛盾が両者を苦しめているにすぎない。スイスだけでなくヨーロッパのどこ

あなたは EEE を受け入れますか  
でもそうだ」「この投票結果で、オーストリア、イギリス、北欧諸国、  
[イタリアの] ロンバルディア地方、[フランスの] コルシカ島やブルター  
ーニュ地方も考え直すだろう。マーストリヒト法の信頼性は無くなった  
のだ」「大切なのは地域や個人のアイデンティティである。しかし、私  
は反〈ヨーロッパ〉とかナショナリストではない。市民の声以外の声は  
聴く気はないし、その意味では心底から民主主義の立場に立っている。  
マーストリヒト法は植民地法だ」

#### ■ノンの理由についての徹底的アンケート

(L'Hebdo-Cash-Télévision suisse が 2023 人 (内スイス・ロマンド  
752 人, ドイツ語圏 705 人, ティチーノ州 566 人) に電話で調査  
[図- 3 ~ 12])

9 面

#### ■見出し：極めて厳しくなる…

・不安、孤立、経済的困難。3 閣僚ルネ・フェルベル、ジャン・パスカル・ドラミュラ、アーノルト・コラーの三人はこの投票の結果から、危険な未来を予測する。

(記者会見記事は今までのと重複するので省略)

#### ■見出し：ブリュッセルは赤信号

・スイスの拒否は AELE の仲間の足を引っ張り CE を苛立たせる。

(記事は省略)

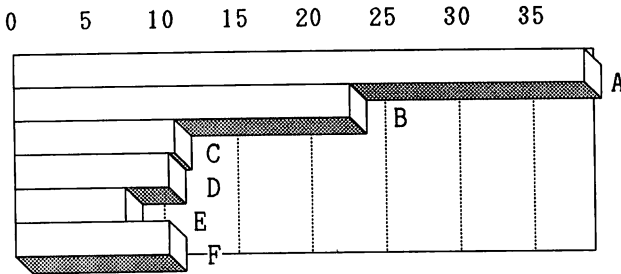
#### ■囲み記事：René Schwok (ジュネーヴ大学国際問題高等研究所)

・タイトル：スイスのために悪い、ヨーロッパのために悪い。

[要旨] スイスが EEE を拒否したことで、AELE からの孤立がまず生じる。将来的にはスイスだけが (正確にはスイスと外交を連動するリヒテンシュタイン\*だけが AELE の構成員となる事態になりうる。CE が成立すると対ヨーロッパ諸国との交渉チャンネルを全てなくす。という

のは、一国相手の個別協定をしない、というのがそもそも CE の精神だからである。そこで、スイスは伝統的にも地理的にもドイツを窓口として、ほそぼそと関係を結んでいくことになるだろう。つまりドイツ語圏の人々が、ドイツ警戒のために反対投票をしたために、パラドックスではあるが、ドイツとの接近を余儀無くさせるのである。

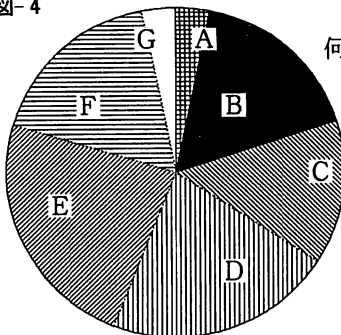
図-3



■ いつ態度を決定したか：

A	当初から	38.4%
B	かなり以前から	22.6%
C	1～2 ヶ月前	10.7%
D	3～4 週間前	10.3%
E	2 週間前	7.4%
F	1 週間前	10.3%

図-4

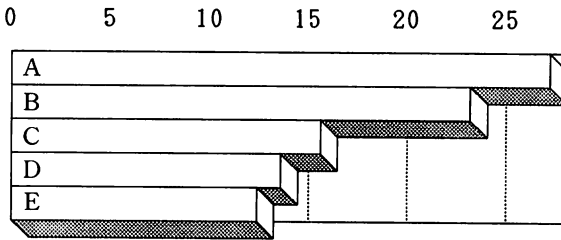


何が態度決定に一番影響を与えたか

A	党の政策	3.3%
B	政府の政策	16.8%
C	経済関係機関	14.1%
D	メディア	21.8%
E	知人友人	23.6%
F	影響なし	17.2%
G	その他	3.2%

あなたは EEE を受け入れますか

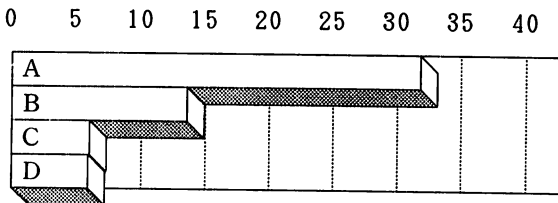
図-5



賛成票を投じた人に：その理由は

- A 孤立を避ける 27.2 %
- B 経済的理由 23.2 %
- C 開放的な精神 15.6 %
- D 若者のために 13.6 %
- E CE加盟のため 12.4 %

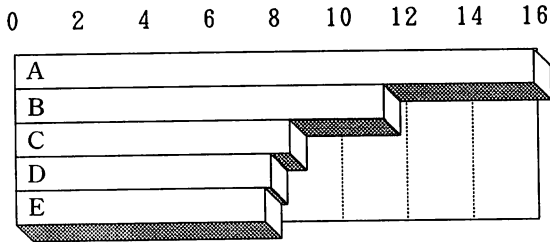
図-6



反対者にも一理あるか

- A 全くない 31.8 %
- B 外国人労働者の流入 13.6 %
- C 失業の増加 6.0 %
- D 独立が失われる 5.9 %

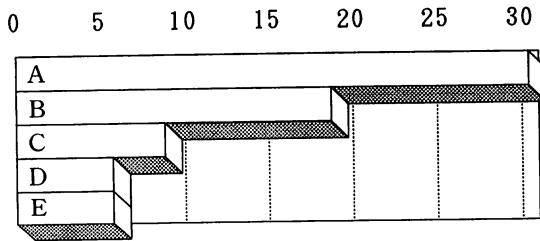
図-7



反対票を投じた人に：その理由は

- A 外国人労働者の流入 15.9%
- B 独立が失われる 11.3%
- C 愛国心 8.4%
- D C Eに反対だから 7.8%
- E <ヨーロッパ> は悪くなる 7.6%

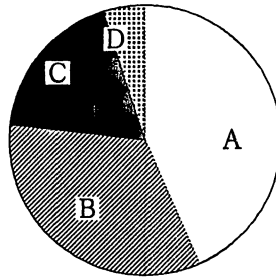
図-8



賛成者にも一理あるか

- A 全く無い 30.4
- B 経済的説明 18.7
- C 開放的精神 8.8
- D 失業減少 5.7
- E 孤立を避ける 5.7

図-9

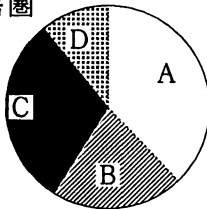


フランス語圏とドイツ語圏の分断は

A	たまたまの結果	49.6 %
B	連邦制度にとって憂慮すべき	21.1 %
C	スイス・ロマンド分離の可能性へ	22.7 %
D	無回答	6.6 %

図-10

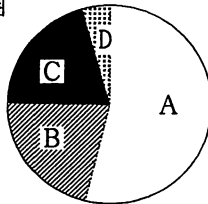
フランス語圏



A:37.9%
B:21.0%
C:30.1%
D:11.0%

図-11

ドイツ語圏

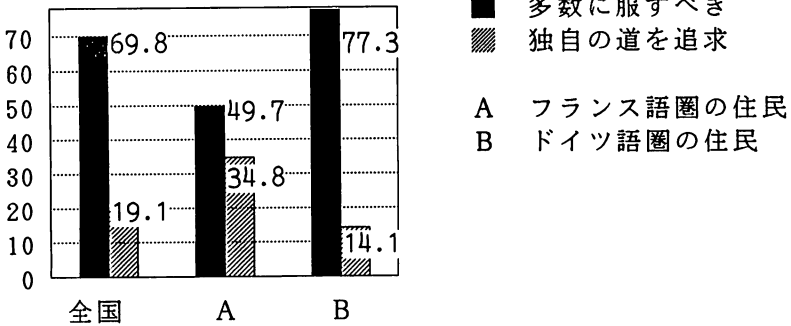


A:53.9%
B:21.3%
C:20.3%
D: 4.5%



図-12

フランス語圏は少数意見であったが、多数に服すべきか、あるいは独自の道を追求していくべきか。



スイスは農業問題と中立（軍事）問題の二つの特殊事情を抱えているが、AELEがCEと交渉を始める際に当然スイス抜きで一切の交渉ははじまる。遠い将来にスイスが方針を変えてCEに加盟する場合（それは確実であるが）が生じたら、スイスは自国が一切関知しえなかった農業政策や軍備政策が既に決まってしまう〈ヨーロッパ〉に加盟することになる。

\*しかしリヒテンシュタインは12月13日、13,982票中、6,722票を得てEEE加盟賛成が勝利。投票率は87%。この結果はスイス人の予想を完全に覆した。同国は、スイスと連動すると見られていたからである。ドイツ語圏では苦々しく、スイス・ロマンドでは「それ、見たことか」という論調で報道された。後出 Le Matin 1992.12.14を見よ。

□ 11面

■見出し：国民精神分析

〔要旨〕経済・ヨーロッパ協定について論じていたつもりが、問題になっていたのはスイス自身だった。これを機会に、スイスのアイデンティティについて討議を開始すべきである。

LE MATIN 紙 1992.12.7.

□ 1 面

■見出し：さあ、作業にかかって下さい！

[編集長 (Antoine Exchaquet) 名で大活字で書簡形式で読者に訴える]

[要約]

・スイス・ロマンドの皆さん、

EEE にウイと答えられた皆さん、今朝はさぞや失望をされていることでしょう。しかしスイスはデモクラシーの国です。ドイツ語圏の人々にこのノンの選択がいかに危険であるかを言い続けましょう。かならず、この決定はまた覆されるはずです。分断は避けるべきです。歴史には一時のショックもありますが必ず理性が勝利します。スイスとて同じです。さあ、次の作業にかかってください！

・ EEE は否決されました。そこで、次のアンケートに答えて下さい。

1. ドイツ語圏とは分離すべきか
2. ドイツ語圏を説得し続ける価値はあるか
3. スイスのヨーロッパへの統合は断念すべきか
4. 国民、州のダブル過半数賛成という憲法条項は改正すべきか

[送付先…]

(注 アンケート結果は後出同紙 1992.12.12 を見よ)

□ 2 面

■大見出し：二分されたスイス

：スイス・ロマンド、一蓮托生の覚悟

：ドイツ語圏、自己閉鎖

・各党の反応：

PRD：歴史始まって以来、初めてスイスがヨーロッパに背を向けたことは遺憾である。

PDC：2言語圏の分断を憂慮。

PS：この結果は必ずしもヨーロッパへ背を向けたものではないと判断。

CEやAELEとの交渉は行うことを要求。

PLS：2言語圏の分断を憂慮。

AdI：反対者は責任を追うべきだ。

UDC：結果に極めて満足。市民は〈一方的、反デモクラシー的協約〉に反対したのだ。

PES：満足。スイスはヨーロッパに反対したのでなく〈悪しき協約〉に反対したのだ。

PDS：満足。

LT：満足。

PA：満足。

■イラスト：[国会議事堂（ベルン）が孤島に聳え、周囲に波が打ち寄せている] [図-13]

■ドイツ語圏は自己へ閉塞した。見知らぬものにたいする恐れ。自分の主権が脅かされることへの恐れ。ベルンで一番のほうがブリュッセルで最下位よりよい[鶏口となるのも牛尾となりたくない]。ドイツ語圏はドイツの17番目の州(Land)になりたくない。こういう懸念に加えて、今の経済的特権的地位(とくにツーク州やシャフハウゼン州)を失いたくない気持ち。また農村地帯を多く抱えている事情。そして反対運動の急先鋒 Blocher のデマゴギーの効目。

■イタリア語圏は不安定なイタリアへの警戒。ロンバルディア地方の90万人にティチーノ州の30万人が吸収される可能性への不安。

□3面

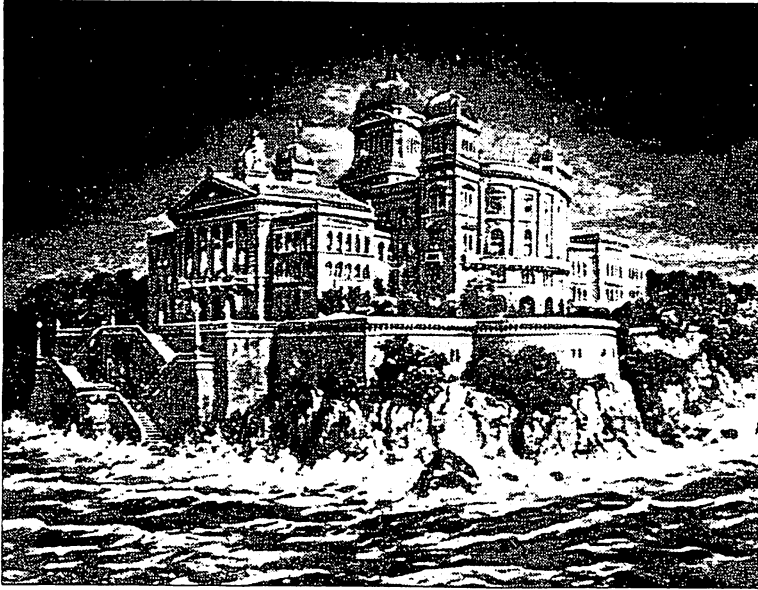
■見出し：「暗い日曜日」

・今回のEEE批准推進の政府の責任者の記者会見。

大統領 Felber のコメント：政府と国民のあいだの深刻な乖離。

外務・経済担当 Delamuraz のコメント：EEE協約へ向かう方針は変

図-13



更しない。

閣僚 Arnold Koller のコメント：この否定はドイツ語圏の支配を意味しない。

■見出し：一国でどうやって全ヨーロッパと対抗するのか。

・3人の政治家のコメント [略]

・農協 (Union suisse des paysans) のスポークスマンのコメント：  
(EEE 否決によって) 農民にとってのまず越えるべき障害を無事越えられたことはよいことだ。しかし勝利というには程遠い。全農民が団結してガットにたいしても満足すべき結果を獲得しなくてはならない。

・[賛成・反対率と全国地図上の色分け区分 図-1, 表-1。]

□4面

■見出し：ブルースの深刻な響き。

■漫画 [図- 14] : ドラミュラ前大統領が記者にマイクを向けられて、  
「いやあ、暗い日曜だが、まだ希望はあるよ。ソマリアと手を組んで市場をつくればいいさ」それに相槌を打つ形で現大統領のフェルベルが、  
「君のオプティミズム、好きだよ」

■ 11 人の市民のコメント (要旨)

・怒っているよ。スイスのイメージが消えてしまった。ドイツ語圏の人達はそうやって孤立して、スイス・ドイツ語をいつまでも擁護していればいいんだ。

・失望。不快。ヨーロッパから取り残されたかんじ。

・落胆した。

・怒っている。〔反対をした〕中央スイスとアルプス地帯の上にガラスのベルでも取りつけて、観光客の見せ物にすればいい。フランス語圏の反対票が少なかったのは今後のためにもよかった。

・茫然としている。ドイツ語圏のやつらは自分がマジョリティだから横柄なんだ。私はいっそエスキモーに帰化したいよ。

・対話が必要だ。このままだとヨーロッパから孤立することは確実。

・感情的な対立が多過ぎる。今後については政治家を信頼している。

・絶望だ。もうすこしましかと思っていた。

・よかったね。EEEなんて言うのは金持ち連中だけで、われわれ貧乏人からみとるEEE認めたらもっと失業は増えるよ。ドイツ語圏の人の方が愛国心があったのだ。

・結果に満足している。

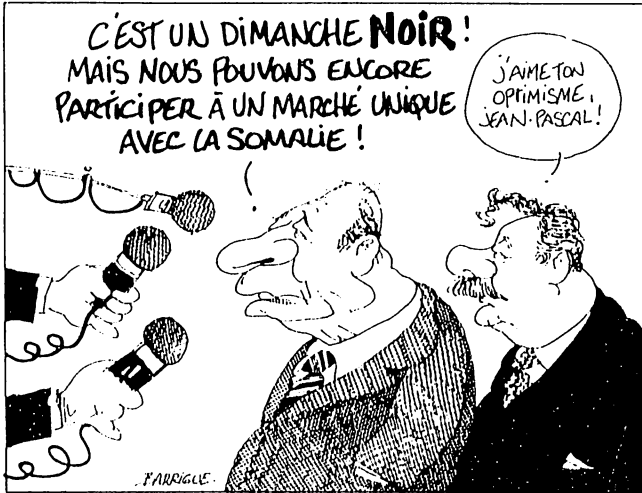
・合理的に考えれば反対すべきだ。長期的にはまたよい解決策が見つかるだろう。我々次第だが。

□ 5 面

■見出し : 〈戦争〉の危険。

・写真 [ヌシャテル州で〈ヨーロッパ世代〉グループと若者達がベルン州の州境に白ペンキで国境線を引いて集結してる。国境の一方はEEE

図- 14



と書かれ、他方は ZOLL〔税関〕と書かれている]

■国会議員のコメント。

[全体として、EEE 条約に賛成していた者は、激しい調子で反対派を非難し、反対派は勝利者であることもあって穏やか。「言語文化の溝ということを誇張しないでほしい。よしんば、溝があるというなら、そこに落ちないように注意して橋でも架けるようにして欲しい」というのが代表的意見]

□ 7 面

■全面広告：[広告主は FLEUROP-INTERFLORA（花屋のヨーロッパ・世界組織らしい）「EEE は否決されましたが、ヨーロッパは私たちには益々必要です。大統領ルネ・フェルベルを支援する形で、みなさん花束を送りませんか、お近くのどの花屋さんからでも贈れます」という趣旨で全スイスの花屋の名前が前面微細活字でぎっしり並んでいる]

□ 9 面

■漫画 [図- 15] : タイトル「EEEgoïsme helvétique」(スイスのEEE エゴイズム) [金貨の山に首を突っ込んで、回りが見えなくなっている男]

L'EST VAUDOIS 紙 1992.12.7

□ 1 面

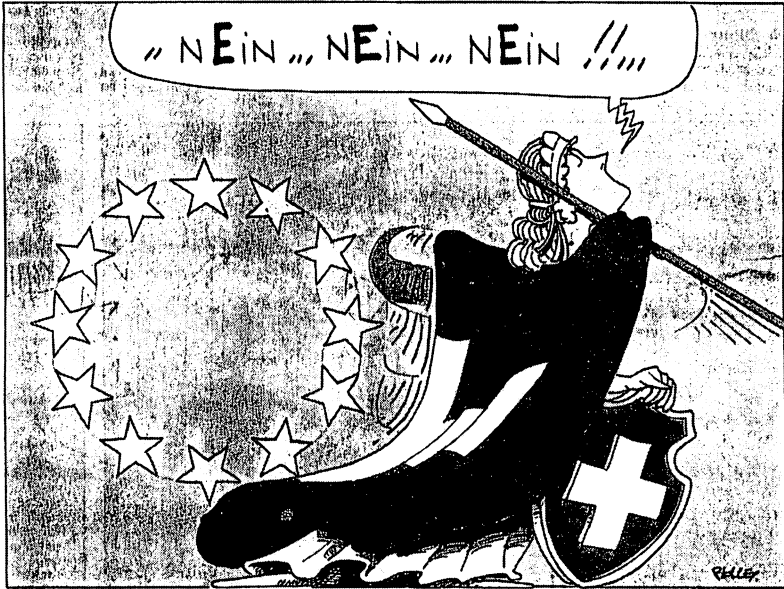
■見出し : Die Schweiz sagt nein, punkt schluss [スイスはノーと言う、はいおしまい]

■漫画 [図- 16] : 女神の姿をしたスイスが “nEin, nEin!!!” といいながら CE のシンボルの 12 星にそっぽを向いて拗ねたようにしている。

図- 15



図-16



■中見出し：ドイツ語圏がフランス語圏の意見を打ち砕いて、EEE 入りを葬った。

■社説：スイス・ロマンド人，笑い物にされる七面鳥（虚仮にされる）  
[論旨] 今回の否決の第一の特色は、首謀者ブロッハーとかれの一派が EEE が純粹に経済問題であることを隠蔽し、拡大解釈しスイスのアイデンティティに訴えるという欺瞞をやったということ。次の特色はフランスに国境を接する地区は例外なく賛成過半数になったが、ドイツ語圏に接する地区はスイス・ロマンドと言えども賛成が低かったということ。もう一つの特色は若者が賛成のために頑張ったということ。今回の結果で、かんたんに落胆しないよう呼び掛けたい。スイスのような民主ラシーの国では多数決は尊重されるがしかし多数だから必ずしも正しいとは限らない。この点がわれわれのようなマイノリティー（笑い物にされる七面鳥）にとっては心配なのだ。



□ 2面

[投票結果の詳細：以上で引用したものと重複する内容については省略。  
小見出しのみ採録]

■ 二言語問題

■ 都市部と農村部の乖離

■ 連邦政府にとっては「黒い日曜」

■ 針路転換

■ 全てが失われたわけではない。

■ フランス語圏はスイスから分離する？

■ ドイツ語圏との乖離は憂慮すべきことだが、その可能性は全くないと信じる、と閣僚の Koller 氏が語る。

□ 3面

■ 見出し：勝利者は今、笑っているが今に泣くだろう。

- ・ 労組は失望。EEE 加盟の努力を推進。
- ・ 農民たちはさらに厳しい現実直面するだろう
- ・ 観光関係者は暗い見通し。
- ・ ブロツハー：スイスの独立が確認された、と語る。
- ・ デマが理性に勝った。

■ 囲み記事：文化的溝が憂慮される [スイス・ロマンドの政治家たちのコメント。要旨]

- ・ 「複合文化の共同体を創設しようとしていることにたいして、単一文化の主張をしようとするのは間違っている」(Pascal Couchepin. ヴァレー州出身 PRD)
- ・ 「これが原因になってまた亀裂ができるのが心配だ」(Jean Cavadini. ヌシャテル州出身 PLS)
- ・ 「ドイツ語圏に人々のマイノリティに対する配慮の欠如を心配する。これはドイツ語圏の政治家の責任でもある」(Christiane Brunner. ジェネヴァ出身 PRD)

あなたは EEE を受け入れますか

ユネーヴ州出身 PS)

・「分断を言いつのるのは誤っている。この結果は単にアプローチの違いでしかない」(Suzette Sandoz. ヴォー州出身 PLS)

■ 囲み記事：ヴォー州東部の投票数詳報 [略]

[コメントの要旨：ヴォー州東部でも、こぞって賛成が上まわったが、例外は Pays-d'Enhant 地区の Rougemont 村で 196 対 206 で反対が過半数になった。この村はドイツ語圏に接していること、山岳地帯であること、失業率が極めて低いことなどがその理由か。その隣村の Roussinière 村は 107 対 106 の僅差で賛成が上回っている]

□ 5 面

■ 見出し：ヴォー州東部の 12 人に聞く [要旨]

・情ない。困惑している。信頼の投票でなく、「不信」の表明の投票になってしまっている。ドイツ語圏とは対話を始めなくてはならない。

(モントルー市役所・女子職員)

・ドイツ語圏との溝がショック。私は人的交流が経済的交流と同じく大切とおもっている。投票の内容が皆によく理解されていなかったのではないか (〈女性=対話〉運動家)

・本質的な議論が欠けていた。つまり、こういう国家経済の問題に対して、政府決定の他に、どうして国民投票が必要なのか疑問なのだ。

(SICOM 社長)

・失望。しかし破局にまで論議を進めるべきでない。経済問題なのだから、まだまだ打つ手はある。最善を尽くすべきだ。(チバ・ガイギー・モンテ工場長)

・私はエコロジスト党员として反対に票を投じた。しかし、この分断の結果には満足していない。至急、橋を架けるべきだ。(技師)

・打ちのめされた感じだ。全く情ない。この投票にはたしかに不確定な要素が多過ぎるが、農民の組織代表としてブリュッセルで向こうの代表

たちと意見交換して、どうもスイス一国で孤立してはもう何も出来ないという感触を得たので賛成に投じたのだ。(ヴォー州農業会会長)

・完全な絶望状態。それとわが国の将来への不安。ただヴォー州が賛成が多かったのは救い。こんなに溝が深いとは予想してなかった。(国会議員)

・心底から失望もしたが驚きもした。それはこんなに言語によって差がでたことだ。スイスが明日に消滅するわけではないから最善の努力をすべきだ。EEEは再三述べたように当社にとってとくに利益なるものではないがしかしこのノンはスイスにとっては不利益になるだろう(ネスル広報部長)

・結果に騒ぐことはない。われわれにはブリュッセルもましてやマーストリヒト法など必要がないことが明らかになったというにすぎない。スイス・ロマン드의賛成票はフランスとスイス・ロマンド出身の二人の閣僚[ドラミュラとフェルベル]に影響を受けたもので、しかもドイツ語圏人嫌い、とくにベルン州嫌い\*が影響しているのではないか(ヴヴェ市会議員・EEE反対委員会会員)

\*ヴォー州は1815年までベルン州の属州だった。

・不信が信頼を凌駕したということか。クリスチャンの観点から言うと、開放の主張が不信を呼んだのは別に驚くにあたらない。デンマークでもフランスでも同じことがみられたのだから。そのうちみんなが信頼できる時代がくるだろう。(スイス・プロテスタント教会の〈ヨーロッパ委員会〉会長・牧師)

・失望と傷心。いま感じるのはこの二語。連邦の統一ということから意識的にもっと強めていかななくてはいけない。私たちが頑張らなくてはいけない。(観光局長・女性)

・この否決に満足している。スイス・ロマンドとドイツ語圏の分断など感じていない。判断は正反対だが、共にスイス人であることを誇りに思

あなたは EEE を受け入れますか

ってのことだからだ。スイスは自由ゾーン、つまりヨーロッパのシンガポールになるべきだ。完全に開放され、完全に自由な。しかし環境には極めて厳しい地域に。スイスであり続けるためにも、連邦国家であるためにも、もっと別のヨーロッパを創設すべきなのだ。(エコロジー運動家)

I' ILLUSTRÉ (週刊誌) 1992.12.9

□表紙〈黒い日曜日〉[ドラミュラ経済・外務大臣が頭をかかえてる写真]

□内容

■スイスは EEE に対して〈ナイン〉と言った。

・閣僚の一人で推進役の中心であり、かつスイス・ロマン出身のジャン・パスカル・ドラミュラは「目標を剥奪されたこの国の若者にとって黒い日曜日になった」と記者会見で述べた。

■コメント [要約]

・「勝利とか敗北とか亀裂とかいう言い方は褒められないわ。EEE 加盟は長期的には正しくても現在では抑制した方がいいのよ」(反対派。ヴォー州出身国会議員、PLS 党。Suzette Sandoz)

・「州によって違いがでるのはこの連邦国家としては当然のことだ」(反対派。フリブール州出身国会議員、UDC 党。Bernard Rohrbasser)

・「私、激怒している。この分断はドイツ語圏の人々の私たちフランス語圏人に対する軽視を表している。見通しは暗い。ああいう人達はスイス社会の平穩の終焉に投票したに等しいわ」(賛成派。ジュネーヴ出身国会議員。PS 党。Christiane Brunner)

・「晴々とした気持ちだ。スイス・ロマンドでは不利な闘いをやったので、僕ひとりで票の 2,3 割は稼いだかな」(反対派。ヴォー州出身。

ASIN [独立・中立スイスのための行動委員会] Martin Chevallaz)

・「大変な悲しみだ。しかし賛成したドイツ語圏人もいるのだから、是非ともかれらと歩調を合わせて進む必要がある」（賛成派。ヌシャテル州出身国会議員。PS 党。Francis Matthey）

・「スイスにとって情ない話。ドイツ語圏と対話の再開が必要だ」（賛成派。「ヨーロッパ問題検討委員会」代表。ヴァレー州出身）

・「二重の失望。ヨーロッパへの窓が閉じられたことと国論が二分したことだ」（賛成派。ジュラ州出身国会議員。PRD 党。Michel Flückiger）

・「相当な苦汁を嘗めさせられたかんじだな。ここにいる若者達（EEE 賛成の若者グループ）の父として、祖父として、スイスが十年後、十五年後にどうなるかが心配だ。外の世界に背を向けると報いがくるよ」（EEE 賛成ジュネーヴ委員会会長。元国会議員。PDC 党）

・「多分通らないとは思っていた。しかし意外だったことが二つある。一つは、ツーク州のように近代化された州\*で否決か勝ったこと。もう一つはフランス語圏での賛成票の多さである。スイス・ロマンドがこれからはスイスを引っ張っていかねばならない」（“Nouveau Quotidien” 紙編集長。Jacques Pilet）

\*ツーク州は第三次産業が中心の経済構造をもち、農業地帯をかかえな  
いたため、常に国民所得でスイス一、世界でも一位といわれるほど裕福な  
州。

・「悲しいが、若者の中ではドイツ語圏、フランス語圏の断層はそれほどない」（GE\*のメンバーの一人。ヌシャテル州 Jean-Rémy, Nathalie Roulet 夫妻）

\*Génération Europe（ヨーロッパ世代運動）は約5千人の若者で構成されている戦闘的な親EEE団体。

・「スイス・ロマンドの人々が、ドイツ語圏の人に対して、悪印象をもつことを恐れる」（“L’Hebdo” 週刊誌編集長 Jean-Claude Pécelet）

■ EEE 加盟推進派であり、また二十年前からいち早く CE 加盟を唱えている親ヨーロッパ派の一人である Guy-Olivier Segond ギ・オリヴィエ・スゴン（ジュネーヴ州出身国会議員・次期閣僚のひとり）へのインタビュー

[記事中の両語圏についての発言。要旨]

・結果はフランス語圏とドイツ語圏のきわめて明確な断層を表している。この断層はしばしば体制側からは存在しないと言われてきたが、今や、これは実在していてしかも大きなものだということは明らかだ。私はこの結果、国民の気持ちがいざばらになることを恐れる。その兆候はすでに何年前から見え始めている。

・反対派は感情とか原初的な恐怖心に訴えた、つまりスイス人の「はらわた (tripes)」へだ。賛成派のキャンペーンの方は議論や論理とか信念行動とか自らに対する自信の証に基づいて行われたわけだ。つまり知性に訴えた、頭と同時に心に。短期的に見るとこっちの戦法は敗北するかもしれない。しかし中期的に見るなら「はらわた」に賭けるよりは心と頭に賭けた方がはるかに正しい。だから私は遅かれ早かれスイスはヨーロッパに合体するだろうと確信している。

### 3 EEE 否決後の断片記事

LE MATIN 紙 1992.12.8

□ 1 面

■見出し：バーゼルの人ってどんな人？

・ドイツ語圏で唯一賛成票が上回ったバーゼル州ではどういう判断をしたのかを探る。[4,5 面を見よ、となっている]

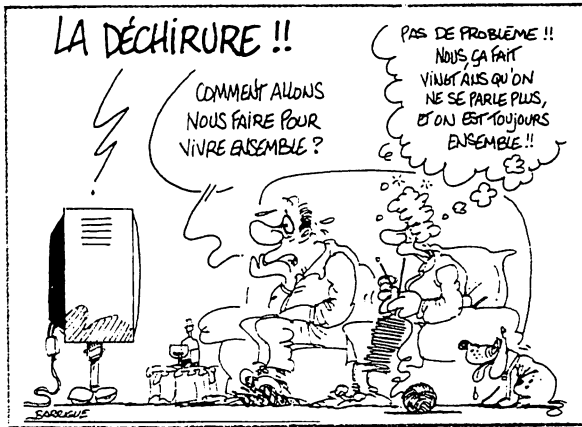
■漫画 [図-17]：老夫婦のテレビの前での会話

テレビから「分裂！」という吹き出し。

夫「どうやって共存すればいいんだろうな」

妻「あら、簡単よ。私たちだってもう20年以上会話ないけど別れてないもん」

図-17



■漫画 [図-18]：ヨーロッパ統合のシンボルマークをつけた車。ボディに「サファリ」と書いてある。その屋根に観光客がいっぱい乗ってカメラをむけている。車の下にはスイス人が餌をあさって這いつくばっている。

■漫画 [図-19]：ドイツ語圏とフランス語圏の溝をファスナーで閉めようとしてフェルベル大統領と連邦政府経済担当大臣ドラミュラが協力している。

□4面・5面

■ぶち抜き見出し：ドイツ語を喋るスイス・ロマンド人

■バーゼルは国際都市（フランスのアルザス地方と、ドイツのバーデン・ビュルテンベルク地方との国境線上にあるライン河畔の町）であり、スイス・ロマンドとも接しているため、開放的雰囲気をもっている。バーゼル州の人々は心の中で「自分たちはドイツ語を喋っているが、気持

図-18

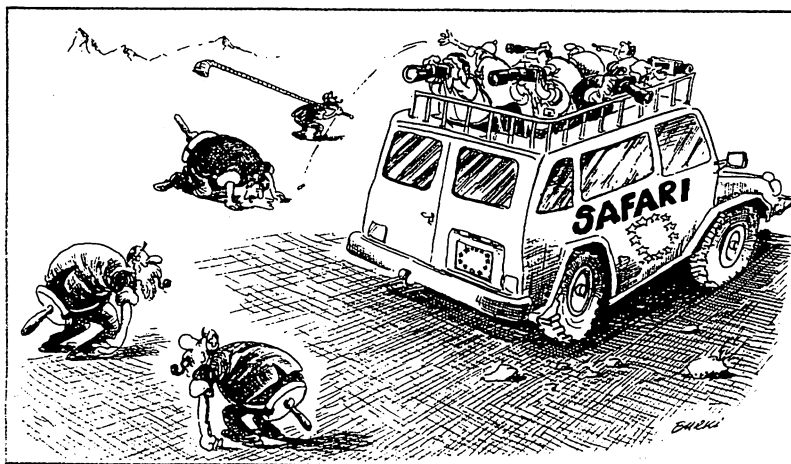
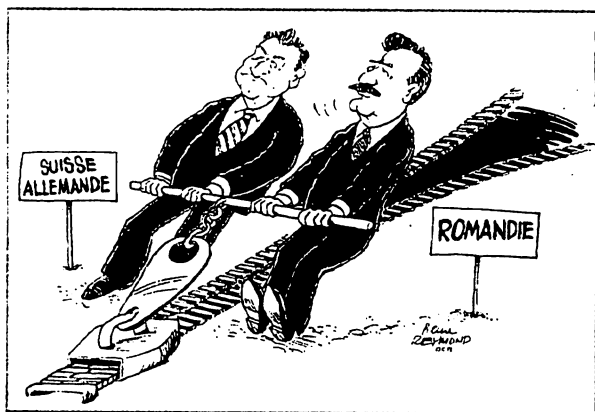


図-19



ちはスイス・ロマンド人だ」と言っている。地理的に言っても彼らは伝統的にすでにヨーロッパ人なのだ。「ここにはチバ・ガイギー、サンドス、ホフマン ラ・ロッシュ、ダンツァツなどの企業がある。これらの国際企業を守るためにも闘いを続けなくてはならない」と州会議長の H.-R. Striebel は語る。



■バーゼル州の市民 10 人にインタビュー [要旨]

- ・悲しい一日だった。この結果は経済面で悪く出るだろう。外国人に対しては不安はない。フランスは好きな国だ（歯科医助手, 21 歳・女）
- ・フランス語圏の方が進取の気性に富んでいる。ドイツ語圏のナインと言った人は鼻先以上の遠くが見られない人種だ（菓子店店長, 31 歳・男）
- ・年寄りの保守主義者たちが悪あがきしただけ。スイス・ロマンドの人達はすばらしい。いままでもバーゼルは歩調を同じにしてきた。（広告代理店勤務, 26 歳・女）
- ・ナインザーガー（反対屋）は新聞の論調に引っ張られたけど、その結果がどうなるか分かっていない。けれどフランス語圏の人もドイツ語圏の人を嫌悪しないで欲しい。賛成票を投じた人も多いのだから。（看護婦, 26 歳・女）
- ・原則として私は EEE に反対。けれど投票は賛成に入れた。経済の活性化には必要だからだ。スイス・ロマンドの人達はすばらしい。勇気がある。（失業中, 26 歳・女）
- ・スイスが永遠にこのままヨーロッパの中で孤立してはいけない（主婦, 57 歳）
- ・私の仕事の経験（公認会計士）から言っても EEE は唯一の選択肢だ。老人が若者に不安を懐かすような否決投票をすべきではない（定年退職者, 76 歳・男）
- ・まだ投票権はないけれど EEE には賛成。フランス語圏の人達は外国人に慣れている。（中学生, 15 歳・男）
- ・はっきりナインと投票した。EEE 認めたら、スイスには犯罪者と外国人が雪崩込んでくる、と思う。スイス・ロマンドの人がどうして賛成するのか分からない。フランス語圏の人の方が私の経験から言っても閉鎖的だ。（店員, 46 歳・女）
- ・ナインに投票した。ミッテランだってマーストリヒト法をフランス人

あなたは EEE を受け入れますか

に呑んでもらうのに大変なのだ。あれ見るとスイスはもっと無理だ。フランス語圏の人はやっぱりゲルマン人とは違う、しかし違いは受け入れなくてはいけない。(商店経営, 54 歳・男)

## L'EST VAUDOIS 紙 1992.12.8

### □ 1 面

#### ■見出し：ベルンから見た親ヨーロッパ派のフランス語圏

・国会で「わが国の将来は開放と連帯に賛同する力の側にこそある」とか「フランス語圏の人々よ、我々はあなた方を必要としている」とか「フランス語圏の人々よ、我々はあなた方が好きである」とかいう演説が次々行われたが、大統領 Felber は「そういうだけでは十分でない、それ以上のものを示す必要がある」と厳しい。

■漫画 [図- 20]：「頑固一徹のスイス人の典型のような老人が「ナイン！」と言ってスイス地図の上に拳固を叩きつけている。フランス語圏とドイツ語圏の間にヒビが入っている。

■社説 [要旨] この怒りが覚めたとき、冷静に二つのことを考えておく必要があると思われる。1. ドイツ語圏=反フランス語圏=反ヨーロッパという図式はとらない。18 万人のスイス・ロマンド人も反対票を投じ、100 万人以上のドイツ語圏の人は賛成票を投じたのだ\*<sup>1</sup>。反対者は、今後、スイスの直面する現実の厳しさによって目覚めてもらえるだろうし、また日常的にもこれらの人々を説得しなくてはならない。2. 投げたブーメランのように、この問題を我々に戻し、ジュネーヴ=バーゼル枢軸を至急創設し、その力を結集して、スイスの古い地区\*<sup>2</sup>に当たり、またフランスとの経済交渉にとりかかるべきだ。

\*<sup>1</sup> 両語圏の人口比はおおよそ、ドイツ語圏 3.5 対フランス語圏 1。スイス・ロマンド州（この中にはフリブール州とヴァレ州のように独仏二言語州も含まれるのでその部分を修正するとおおよそ上記の数字になる）での賛成票 561,543 に対して反対票は 216,421 であった。ドイツ

語圏での賛成票は1,157,591, 反対票は1,483,110である。

\*<sup>2</sup> スイス建国の中央スイスやアッペンツェル州を指す。

図-20



□ 2面

■ヴォー州政府は EEE 推進に立っていただけに、この否決の帰結に不安を懐いている。州議会議長は「破局に到らないように、両語圏の乖離の修復にとりかかりたい」と述べている。

■レマン湖対岸のエヴィアン [フランス] の町長は、否決に失望の意を表明。スイス・ロマンドの賛成が多かったことをせめてもの救いとし、レマン湖地区紐帯を提案している。

あなたは EEE を受け入れますか

■ 3 人の高校生へのインタビュー記事。

[要旨]「外国に学びにいけない。牢獄にいるようだ」「扉を閉められたみたいだが、いつかはまた開くと思う」「あと一年すれば賛成が上回ると思う。ドイツ語圏の人はいつも保守的。しかし国を割るのは危険だ。ユーゴみたいになりたくない」

□ 25 面

■見出し：スイス・ロマンドとドイツ語圏は手を差し延べあう。

・両語圏は力をあわせ今後の具体策を模索すること。このようなコメントが連邦議会と政府で異口同音に述べられた。

■見出し：クレディ・スイス銀行試算によるとこの否決で、来年は 1 万 5000 人の失業者増となるだろう。

・ EEE 否決により失業が 13 万 5000 人から 15 万ないし 16 万人に増加し、国民総生産も 0.4 % 減少する。消費も 3 % 落ち込むだろう。もし EEE が受け入れられていたなら逆に 1.5 % 増加するはずだ。物価は 3 % 上昇と悪いことづくめである。

■見出し：スイスの諸新聞にみる。

・フランス語圏の諸新聞は異口同音に EEE 否決の苦汁をあらわに表明していた。ヌシャテル州の *L'Express* 紙は “D' Schwiiz het nei gseit<sup>\*1</sup>” と皮肉り、また nEEEin<sup>\*2</sup> という風刺漫画もあった。各紙に共通するのは、両語圏の世界観と未来観の異質さの指摘。ラ・ショ=ド=フォン町の *L'Impartial* 紙は「幸福感の異なる二つの民族だ」と述べ、フリブールの *La Liberté* 紙も同様のことを述べ「この 12 月 6 日でスイスは二つに分かれた」という。ジュネーヴの *Journal de Genève* だけが「ウイの 2/3 以上はドイツ語圏のものだった」と抑制的に書いている。スイス・ロマンドはスイスとは別の外交があってもいいというような声も見られたローザンヌの *24 Heures* 紙は「これでスイス・ロマンドの明確でダイナミックな姿が浮かび上がったのはよいことだ」と肯定的に

とらえている。*L'Hebdo* 紙は「ベルン政府にフランス語圏共通の基本政策を提示し、場合によっては単独に欧州共同体と交渉してもよい」とまで言っている。*L'Express* 紙は連邦政府の拙速ではなかったかという疑問を呈しているが、その他の各紙はこの否決にひるむことなく前進すべきであるとの論調である。

・ドイツ語圏の新聞では、チューリヒの *Tages Anzeiger* 紙は「スイス・ロマンドにとっては手痛い拒絶だったろう。しかし対話は必要だ」と書いている。*Neue Züricher Zeitung* 紙は「あまりにもの対比に不安を感じる」としている。また *Luzerner Neuste Nachrichten* は「両語圏の溝がこれほど深かったことはかつてなかった。ドイツ語圏人は〈即自目標〉 autogoal を獲得した」とする。*Blick* 紙にとっては「EEE 拒否は連邦政府の手痛い失点」という評価はあるが、ドイツ語圏各紙に共通して見られるのは、内閣の辞職を求める声がないこと。ドイツ語圏で唯一賛成多数を出したバーゼル州の *Basler Zeitung* はバーゼル州からジュラ山脈を通してジュネーヴを結ぶ連帯地帯創設の提言をだしている。それは EEE 拒否は国内問題だという認識からである。

\* 1 「スイスは否と言った」というスイス・ドイツ語。

\* 2 言うまでもなく EEE と nein をかけている。

## LE MATIN 紙 1992.12.12

1 面

■ 7 日付けで読者にアンケートを求めたが、約 5000 通の回答が寄せられた。その紹介を。

・ EEE は否決された。次のアンケートに答えて下さい。

2 面

■ 見出し：それでも挫けない

・ EEE 否決に多くのフランス語圏の人々はスイスの未来に一旦は絶望の色を表明したが、このアンケートの結果からはスイス・ロマンドの人々はやはり強い希望を懐いて前進する気持ちが溢れている。

1. ドイツ語圏とは分離すべきか
◇ウイ 48.8%      ◆ノン 51.2%
2. ドイツ語圏を説得し続ける価値はあるか
◇ウイ 69.5%      ◆ノン 30.5%
3. スイスのヨーロッパへの統合は断念すべきか
◇ウイ 5.9%      ◆ノン 94.1%
4. 国民、州のダブル過半数賛成という憲法条項は改正すべきか
◇ウイ 84.4%      ◆ノン 15.6%

■漫画 [図- 21] : スイスの国旗を二人の男が逆向きに持って引っ張り合い、国旗は 3 対 1 の比率で破れて、白十字 (スイス) が大男の方に残っている。この男はいかにもスイス人という様子をしている。アルプスの向こうに CE の 12 星旗がみえる。

■ [読者から返ってきたアンケートに付けられたコメントの中から 32 通を紹介している。平均、約 10 数行。この内、いわゆる反対派からのコメントは 2 通。1 通は同紙の立場 (賛成のキャンペーンを張ったこと) への批判、もう 1 通はドイツ語圏の人々を擁護するもの。内容は略]

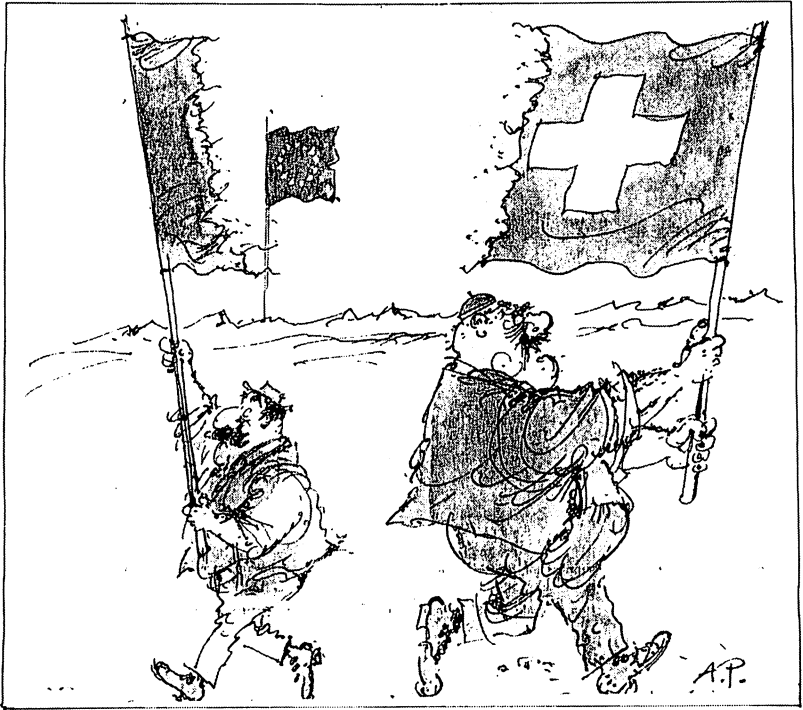
□ 3 面

■見出し : 挑戦を再び ! [アンケート内容の分析]

■小見出し :

- ・明確な意思の表明 (が読者によってなされている)
- ・元気あるコメント (ドイツ語圏を説得しようという者 7 割)
- ・即刻決定を ( EEE 加盟への態度を推進すべし)
- ・憲法改正を強く主張

[内容省略。その総評に「否決にもかかわらず、われわれは明るく前進する楽天主義者であることが読者からの回答であきらかになった」とい



う趣旨の署名記事が大きな活字で掲載されている]

JG 1992.12.12

■ 12.10 ローザンヌでは1000人の学生がEEEから取り残されたことにたいする抗議デモを行なった。

JG 1992.12.13

■ EEE後(APRES-EEE)。UDC 党の記者会見。

・ブロッハー氏はスイス・ロマンドを馬鹿にしている。フランス語圏に何キロかの高速道路をつくればおとなしくなる、と言う。

・UDC 党の8ページにわたる総括でスイス・ロマンドについてはたっ

あなたは EEE を受け入れますか

た 5 行がさかれたのみで、そこでは「フランス語圏の住民は EEE で失業問題が片づくという言葉に惑わされたのである。たしかに断層は出来たが、解決策はいくつかある。たとえばスイス・ロマンドに国道を早期に完成させること、調停委員会を創設すること、税を地方放送局のために配分することでマイノリティ言語に配慮することである」と述べられているのみである。

・この意見は UDC 党の支配的意見でもないしまたフランス語圏の党員の意見が全く反映されていない杜撰なものである。

#### LE MATIN 1992.12.14

■リヒテンシュタインではウイだ！

・〈ヤー〉が圧勝。約 2 万人の有権者が曇と雷の中、投票を行い、賛成票 6,722, 反対票 5,322。55,81 % の過半数で EEE は認められた。住民数で過半数になっただけでなく、11 の町村全部でも過半数を得た。

・〔写真：ハンス・アーダム二世が嬉しそうに大笑いしている顔〕

・同紙のインタビューに答えて公は「スイス・ロマンドとバーゼル州の賛成票がとても嬉しかった。これからは手を携えて、スイスの反対州の説得を始めましょう」とコメント。

・〔その他、5 人のリヒテンシュタイン人のコメント〕

#### JG 1992.12.19

■ヌシャテル州では若者達が投票直後大規模なデモを行った。「我々の未来を奪うな。連邦政府は当初の計画通り EEE 加盟の努力を続けよ」というものである。

#### JG 1992.12.20

■UBS（ユニオン・バンク・スイス）の重役であるクリストファー・ブロッハー氏を 1993 年 4 月 29 日の株主総会で辞職勧告する議案を提案



することを決定。理由は同氏が ASIN( Association pour une Suisse indépendante et neutre)〔独立・中立スイスのための会〕の会長として EEE 反対の急先鋒に立ち、スイスの金融政策の国際的・長期的施策と逆行する行動をしたというもの。なお同氏は 1981 年から重役であった。

■ EEE 否決後の連邦政府の方針：EEE 再投票，CE との交渉再開の要求堅持。

■ ジュネーヴ大学の政治学専攻の学生約 100 人が EEE 協定の再投票を求めてデモをした。

### 1' ILLUSTRE (週刊誌) 1992.12.22

■ 93 年 1 月よりの大統領 Adolf Ogi〔ベルン出身・穏健派スイス・ロマンドに一番人気のあるドイツ語圏政治家だとアンケートなどでは言われている人。今回の投票でもベルン UDC は賛成に回った〕へのインタビュー

■ 見出し：12.6 ショック

・ UDC 党首の Ogi 氏は 1 月 1 日から大統領になるので、次の党首はチューリヒ出身のクリストフ・ブロッハー Christoph Brocher が考えられるが、Ogi 氏は EEE にかんして彼と全く対立している。このため、UDC は完全に分裂している。

・〔発言から〕「ショックは両語圏の人々の共存を考える好機である」「4 つの文化，4 つの言語，26 州のスイスが共存する意思を確認することが就任にあたっての私の願い」「6 日の件。平静になってほしい。両者が互いの言葉を喋ってほしい」「非中央集権国家はヨーロッパの理想型なのだ」「外部に EEE 否決の説明はしなくてはならない。孤立は避けなくてはならないから。また加盟にむけての交渉も必要。ただし国内的におおいに慎重に議論が必要。二度目はノンではすまされないから」「若

あなたは EEE を受け入れますか

者は EEE 賛成。したがって今回には大きな失望を感じているだろう。未来への閉塞感もあるだろう。投票の翌週土曜にベルンで若者のデモがあった。その問題は娘からも聞かされた。政治的にも重大だと考えている」

### JG 1992.12.24

■ドイツ語圏のベルンの日刊紙 “Der Bund” 1992.12.23 の試算によれば、あと 60,761 票（投票数の 1.6 %）の投票があれば過半数の州と過半数の国民票が獲得できて EEE 加盟は成立したはずという。その可能性のあった州はチューリヒ州、ベルン州、ツーク州、ゾロトゥルン州、アールガウ州。また票の分析結果、都市地区と農村地区での対比はもちろんだが、80 %以上の否決があった地区はエメンタール谷地方とベルナーオーバーラント地方の周辺に集中しているという。

### JG 1992.12.30

#### ■署名記事 Anne-Marie Ley

・分断の二項を整理すると：

①ドイツ語圏／フランス語圏②親・近フランス／嫌ドイツ・イタリア③都市／農村\*（ドイツ語圏でも大都市はウイが過半数を得ていたところが多かった）④政党内の分断（とくに大政党では二分していた）⑤政治指導者（経済界）／一般市民⑥若者／若者以外（とくにスイス・ロマン地域）

・伝統文化、スイスドイツ語への執着という積極面だけでなく〈ブリュッセルのお代官様〉に支配される不安や旧ユーゴの悲惨な分断を見て、ヨーロッパと共倒れしたくないという気持ちがあった。ティチーノ州の拒否が正に、対イタリアでこの心情から発していたことは明らか。

\*しかし、注意すべきは農業従事者はスイスの就業人口の 6 %、また、1992.9.18 スイス農協全国代議員大会で 58 対 27 で EEE 賛成決議をし

ている。したがってここで言うのは生活様式とか伝統依存度が農村型ということか。

### JG 1993.1.9

■ジュネーヴ州の PS 党， PDT 党， PES 党， 労働組合などは， 12.6 以降も EEE 賛成運動を展開。労働条件についても， 女性の権利についてもヨーロッパの規範が入って来る方が有利という判断。また環境についても， 大気汚染などは， スイス単独で解決不可能。ヨーロッパ全体で解決する方が効果的だという。

■反対論が勝利した理由はつぎのようなものだろう。

1. EEE 投票がいわゆるマーストリヒト条約でいう CE の側面で理解されてしまっていた。すなわち政治的側面が強調された。もし， これが純粹の自由貿易の条約であるならこれほどの反対はなかったはずだ。
2. ブロッハー氏の影響が強大であった。例えば人的交流→外国人労働者流入→国内失業者増加という図式が流布された。

### JG 1992.1.31

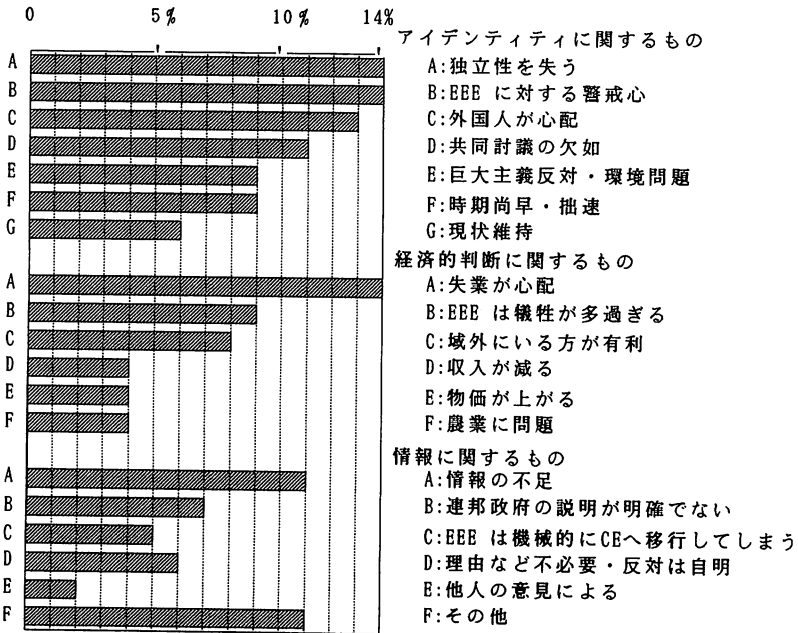
■ブロッハー氏は〈右翼民衆主義者〉〔ポピュリスト〕というレッテルを貼られることを拒否すると， UDC 党チューリヒ州支部大会で 1700 人を前にして述べる。「真の意味での民衆〔プープル〕というのなら私はたしかにポピュリストだしいつも大衆とともにありたいと思っている， しかし民衆煽動の体制打破運動家としてのポピュリストというならそのレッテルは拒否する」

### JG 1992.2.23

■見出し：否決理由の分析結果〔図-22〕 EEE 推進者は行動に移すのが遅すぎた。

・昨日発表された VOX-ANALYSE という調査機関によると， ノンの基本層は右派のものであり， 左派やエコロジスト党のノンの影響力は少なかった。

図-22 否決理由



\*2 つまで重複回答を許したので全体は100%を超える。

た。その右派のキャンペーンは周到でスイス人の感覚によく訴えるものがあつた。再度 EEE 投票がおこなわれる場合を想定して、CE 加盟にあたってはスイスにどのようなアイデンティティを提示することができるかを示す準備をするべきだ。

JG 1993. 2. 28

■見出し：コミュニヌ単位での分析：豊かなコミュニヌが EEE 賛成票を投じた。

■連邦統計局の発表によると、今回の投票結果の差の7割はまず第一に、言語圏の差（文化の差）から説明できるが、第二番目には、ドイツ語圏、

イタリア語圏に関しては、経済的に裕福なコミュニューが賛成に傾斜していたこと、三番目は、教育水準、職業構成、経済的裕福度、〈進歩度〉と〈保守度〉、また新世代と旧世代の差からも生じたという。賛成者の典型的像は「裕福な町に住み、その考え方は、どちらかと言うと進歩的で、教育水準は高く、収入も平均以上で、人が羨むような職業に就いているスイス・ロマンド人」となる。もちろんこれは誇張された理念型でしかない。この逆がイタリア語圏で、ここでは、まず何よりイタリア語とイタリアの複雑な関係が絶大で、加えて、豊かでない農村地帯をかかえている。ただし、進歩的という点では、ティチーノ州は必ずしも後れを取ってはいない。それは1988年の国連加盟についての国民投票で賛成に投じた州だったことをみればわかる。

・ドイツ語圏だけを取り出した場合、次の三つの断層が見られた。裕福なコミュニューと貧困なコミュニューの両極化。これはバーゼル、ベルン、チューリヒ、ヴィンタートゥールといった裕福な都市では賛成がやや上回ったことでよくわかる。次に、地理的な位置が投票行動の差に現れた（いわゆる中央スイス、山岳地帯）。三番目は都市周辺部に比して都市中心部に比較的EEE賛成が多かったこと。

■また、ベルン大学のスイス政治研究センターの報告では、上記のことから、ドイツ語圏を一概に反EEEはとらえられないという。裕福なコミュニューの賛成率は55-60%であったのに対して、農村部と周辺部では20%であり、この差の方が、フランス語圏とドイツ語圏の差より大きいと指摘する。つぎに、スイスでは、外交問題が、年々、国民レベルで意見の不一致をみるような傾向が強まっているという指摘もなされている。国連加盟では、それほどの両極化は見られなかったが、IMF加盟については両極化し、今回のEEEがそれに拍車をかけたかたちだ。とくにひどくなったのが、語圏の差だ。「スイス・ロマンド地方ではEEE条約は、各自の立場を超えて社会変革の好機だととらえられていたのに対し、ドイツ語圏、イタリア語圏では個人の経済の安定を指向す

あなたは EEE を受け入れますか

る傾向が強かった」と報告した。

■上記報告にたいして記者 Jean-Marc Crevoisier の署名コメント。

・たしかに今回ほど両語圏の差が際立ったことはなかったにしても、1972 年から 1992 年の間に行われた 163 回の連邦レベルでの国民投票の内、語圏の差のため、スイス・ロマンドがマイノリティにされたケースが 29 回もあった。つまり約 18 %である。6 回（その内、5 回は道路交通に関するものだったが）はスイス・ロマンドの 6 州全てが一致した結果を出したにもかかわらず、他の州が過半数でこれをひっくりかえした。それは「安全ベルト着用義務」（1980 年）「高速道路ステッカー」「大型トラック税」（いずれも 1984 年）「最高スピード制限変更」（1989 年）「葡萄栽培法令」（1990 年）であった。とくに他の州によって引っ繰り返されることの多いのがジュラ州で、1978 年から 1987 年の間の 59 回の投票中、26 回も、州民の意向が他州の多数意見に負けている。ヌシャテル州は 17 回負けで二位。ただし、三位は驚くことに〔一番保守的な〕シュヴェーツ州で 16 回、ヴァレー州も 16 回。次がジュネーヴ州とヴォー州の 13 回。フリブール州は、スイス・ロマンドでは数が少なく 9 回で、全国でも 12 位である。ルツェルン州とツーク州が一番多数派に近く、州の意向が全国の意向と反対だったのはたった二度しかなかった。

## 投票前の断片記事

JG 1992. 11. 28

■ジュネーヴ市にとって EEE 拒否は国際都市としての価値を軽減させてしまうだろう。国際機関を置かれなくなるかもしれない、という懸念が Hawlett Packard 社の Franco Mariotti 社長から述べられた。

JG 1992. 11. 29

■〔一面全部を使った長論文 筆者 Anne-Marie Lei〕〔論旨：EEE

加盟によって「環境保護」「社会的保護（労働者・女性などの権利拡大）」「消費者保護」「情報・教育・研究の交流」の四つの生活基盤の質が向上するだろう]

JG 1992.11.29

■意見広告

やあ、年長者のみなさん！  
EEEは挑戦です。僕たち若者はEEEをもり立てたいと思っています  
博物館のスイスはごめんです。  
僕たちの国の過去は誇るべきものです。しかし将来への企図も必要  
です。僕たちの希望、僕たちの理想、僕たちの大志を実現させる可  
可能性に応援を下さい。  
僕たちを信じて下さい、あなたのお父さんがあなたを信じたように  
ティエリ・エッシュバッハー  
学生(ComitEEE 委員長)  
**EEEにウイを**

■意見広告

収入は下がり失業率は上がる  
EEEの国民(3億8千万人)は自由にスイスへ来て定住し労働をす  
る権利をもつようになります。現在でも1500万人の失業者がCE  
にいます。この状況ではスイスに外国人労働者の数を増加させ、賃  
金を低下させ失業を増加させてしまいます。  
**EEEにノンを** ASIN

[ASIN=Association pour une Suisse indépendante et neutre(独立・中立スイスのための会)]

あなたは EEE を受け入れますか

意見広告

## MOB 世代から

MOB の犠牲を払い、私たちは今日のスイスの繁栄を築きました  
1972 年の私たちは圧倒的多数で CE との自由貿易協定を支持しま  
した。これを後悔している人はだれもいません。EEE はこの合意  
の実施でしかないのです。

中立、連邦主義、国民の権利、財政、通貨  
について EEE は

私たちの完全な独立を尊重します。

1972 年に私たちが享受したチャンスを若者達から  
奪わないようにしましょう。

## EEE にウイを

アンドレ・リュフィュー(もと国会議員)

[ MOB=mobilisation générale (総動員): 1939 年ナチ侵攻にそなえ国民総動員法が  
施行されたことをさす ]

意見広告

気を付けて下さい!

EEE は必要悪?

悪が必要だったためしはありません

## EEE にノンを

L' EQUIPE

[ EQUIPE という団体不詳 ]



■意見広告

## 気をつけて！

外国人がスイスにさらに溢れる

EEE 条約は EEE 諸国の住民(3 億 8000 万人)がスイスに職を求めてやって来ることを可能にします。このことはどんな職についている人にも影響を与えます。

1992 年 5 月 27 日の EEE の権利にたいする連邦の権利の適用についての

告示 1 号抄

『EEE 協定で確認された域内国民の滞在の権利は労働者、非労働者を問わずその家族までに及ぶ』

EEE 域内には 1600 万人の失業者がいます。その内の 1%でもスイスに滞在するようなことになればそれは家族を含めると 50 万人の数になります。

## 騙されてはいけません

EEE 協定は労働許可授与の認可権をスイスから取り上げてしまいます。EEE のパスポートを持っていれば家族づれで自由にスイスへ仕事を求めて来ることが出来るのです。しかもヨーロッパ人でなくてもです。

## ノンに投票しよう

この条約はあなたの

労働者としての存立

あるいは独立をおびやかします

ASIN

〔1992.12 現在の外国人労働者は 121 万 3463 人。人口の 17.6%、スイス人 6 人に 1 人強が外国人である。内、イタリア人 30.7%、ポルトガル人 9.3%、スペイン人 9%、ドイツ人(主として旧東ドイツ) 7.1%など計 67.5%が CE 諸国または AELE 諸国から。ちなみにその他は 17.2%が旧ユーゴ人、6%がトルコ人、その他 9.3%となっている。なおこの数字には現在スイスが受け入れている約 5 万人の難民、3 万人の国際機関職員、1 万 2 千人の季節労働者、7 万人の旧ユーゴからの一時避難民は含まれていない。連邦外国人局 Office fédéral des étrangers 発表資料による〕

あなたは EEE を受け入れますか

■その他、「経済に目が眩んではいけない」「ブリュッセルの支配下に入る」「スイスにウイを、ブリュッセルにノンを」「外国人に仕事がある、スイス人には失業が待っている」「主権がおやかされる」「物価が 10 % は上昇する」「住宅難が到来する」「農業を破壊する」「スイス人は自由と国民の権利が失われることにノンと言います」「ベルン政府はこの自由と権利をブリュッセルの官僚どもに手渡そうとしているのです」などの論旨での反対広告。〔賛成広告のほうが少ない〕

### JG 1992. 11. 29

■ジュネーヴ大学の学生グループが精力的に「賛成」のキャンペーンを行い、全国で 4000 の署名を集めた。18 歳から 25 歳までの若者はほとんど賛成している、とのこと。

■チューリヒで全国の大学の学生有志が集まり、EEE 協定が実現すると域内の大学間で自由に研究できることや入学の自由、学术交流の拡大についての確認が行われた。

### JG 1992, 11, 22

■連邦政府の Adolf Ogi と Arnold Koller 二人の閣僚が、ドイツ語圏のシュヴィーツ州のスイス発祥の盟約が保存されている建物からテレビ生中継で 250 人の聴衆からの質問に答える形で EEE 加盟の意義を説いた。タイトルは “Vertrag oder Verrat” (条約が裏切りか)。「EEE に賛成することは戦争に賛成することだ」などという激しい怒号と野次と口笛などを前にして両人は果敢にアッペンツェルの地方ドイツ語やベルン山岳地方語を使って答弁をした。同様のテレビ中継がフランス語圏でもスイス・ロマンド・テレビで Jean-Pascal Delamuraz と René Felber を迎えて行われる予定。なおこの直後に行われた世論調査では反対派は 41.1 %、賛成派が 38 %、未決定が 17 % だった。反対派がかえって微増したが未決定もかなり増加した。

### JG 1992.10.25

■ EEE 反対派の急先鋒ブロッハー Christoph Brocher と賛成派の中心の一人スゴン Gui-Olivier Segon 二人の国会議員の公開討論会がノガ・ヒルトンホテルの大ホールで行われたが、最後まで平行線であった。(議論の内容は今までに記述したものに尽きる。目新しい論法として、ブロッハーがこの協定は「植民地主義的一方的協約」だと述べた点。つまり、先に存在する協約に加入するのだから、相互の議論の余地なく署名をしなくてはならない、という)

### JG 1992.10.11

■ 92年9月末現在で26州のうち20州の州議会ですでにEEEについての賛成決議がでている。

### JG 1992.10.3

■ ヴォー州議会がEEE参加推進に公式に関与すると発表。これは州議会始まって以来の異例の決定である。州議会が連邦政府の政治的決定に関与することは未だかつてなかったことだが、それだけでなくそのことを公的に発表するのも初めてである。EEE問題は州の経済に深く係わる重大事だとの判断からである。

### JG 1992.9.19

■ USP Union suisse des paysans スイス農協はEEEに賛成。

・ 9月18日に行われた農協の全国代議員大会で賛成58, 反対27でEEE賛成投票を推薦するとの決議をおこなった。EEE協約はスイスの農業に直接係わる項目は持たないが市場が活性化することは結果として販路拡大に結びつくと判断からである。

あなたは EEE を受け入れますか

JG 1992, 9, 5

USAM Union suisse des arts et métiers スイス職工組合は EEE に賛成の決議。

- ・ 14 万あるスイス中小企業からの代議員大会がベルンでおこなわれ、2 時間の白熱した議論の結果、549 対 456 で EEE 賛成の決議を行った。これは予想外でありまた勇気ある決定である。

JG 1992.7.19

PDS と LT が「反 CE」国民発議を 7 月 17 日連邦政府に提出した。攻撃は最大の防御という。この発議で EEE 投票に揺さぶりをかけるのが目的という。

■〔署名付き囲み記事〕これは、無駄で誤った発議だ。この発議は閉鎖的スイスに導くだけでなく手前勝手に人種差別主義であり、EEE に賛否は別にしてもスイスのイメージを唾棄すべきものにしてしまう。

## ノート

1 以上の報道記事から、わたしたちは、スイス・ロマンドにおけるマイノリティ意識の言説編製の過程をつぶさに眺めることができる。

2 ドイツ語圏では、言語人口比から言って、彼らの意思（というものがあるとすればのことだが）が、フランス語圏の意思にくつがえされることはない。数字だけから単純に言えば、フランス語圏の意思が100%一致したものであっても、ドイツ語圏で最低36%の人々が同意しない限り、その意向は認知されない。逆に言うと、ドイツ語圏の64%の人がある意思を持つと、それは必ず成就するという構造をもっている。フランス語圏側からみると、この潜在的にしかも不可避免的に存在しているハンディキャップ・ゲームに対する焦燥が、今回のような投票ではある意味を折出したのである。

3 しかし、これは語圏がある事項に対しての意見の単位であるということが前提の論理である。後の別表と補足で述べる「偏差値」分析から、地域にある傾向がみられると主張することは一見妥当であるように思われる（JG 1993.2.28）。しかし、それは今回の問題の原因ではなく、結果から引用・創出できる解釈だとも言えるのである。すなわち、問題を設定する言説に結論が内包されてしまっているのである。

4 ここで提供したのは、スイス・ロマンドにおける、このような言説編製の過程の検証のための資料である。読者層の分布とか新聞の質、網羅的調査などから「精確」で果てし無くパラレルな死像を求める同義反復を停止し、恣意的に切り取られた部分が表象するスイス・ロマンド人のマイノリティの心性の形成現場を検証すること。

5 スイス・ロマンドが作り上げようとしている自己イメージを確定しておこう。（この作業を設定した瞬間にすでに語圏の差異という前提が滑り込んでいる）。

1. 自分たちは正義である。

あなたは EEE を受け入れますか

2. 相対的にも絶対的にもドイツ語圏の判断は誤っている。

3. ドイツ語圏の人々は次のようである。

保守的／閉鎖的／後進／硬直／国際性欠如／スイス神話的／狭隘な愛  
国心／イマジネーションの欠落／歴史を氷河に閉じ込めている／臆病／  
孤立／鼻先以上の遠くがみられない／井の中の蛙／悪あがき／年寄り／  
デマに踊らされる…

4. このドイツ語圏の数の力で自分たちの正しさが封じ込められた。

5. 自分たちはマイノリティで被抑圧者、被害者だ。→1. に循環

6 見出しの大活字などに頻出し、言説的対象とされた語彙は「溝」  
「亀裂」「分断」などを現す *fossé, clivage, cassure, coupure, fracture,*  
*déchirure, césure, scission* である。この用語は、言語圏と EEE 否決  
の相関関係が統計的に証明されもしないのに（事実は後の JG  
1993.2.28 すなわち投票後三ヵ月たってからの分析で懐疑的な実相が明  
らかになってきているが、そういう覚めた記事は、東スポばりの 12.7  
のインパクトをとうてい修復するものではない。いわば誤報における訂  
正記事の無力に似ている）主題的に使用され、その線でコメントが集積  
され、それは読者を興奮させ、世論を誘導していった。たとえば賛成に  
ついてはフランス語で「ウイ」と表記しながら、否決についてはドイツ  
語で「ナイン」とするだけでなく、その票を「ナインザーガー（何にで  
も反対する人）」によるものとまで括ってしうとか、L'Est vaudois 紙  
のようにドイツ語の見出しでわざわざ否決を報じたり、L'Express の  
ようにスイス・ドイツ語方言を使用するなどの手の込んだことをして、  
拒否の票を投じた人＝ドイツ語圏の人というイメージをばらまいている。  
この前提のもとにドイツ語圏に対する批判、揶揄、憤慨が繰り広げられ、  
反感が増幅していく。相対的に冷静な人々までが、「しかし仲良くやろ  
う」と、分断状態を前提にした発言をしてしまっている。重要なのは、  
単なる意見の違いが、ある集団に帰属する意見と意見の相違にすり替え  
られ、かつ、一方が「正」で他方が「邪」だと言う価値判断にまで、瞬

時の内にエスカレートしたことである（「決裂はいけない。ドイツ語圏の人々を説得し続けよう」という一見穏健な言辞なども、相手集団を想定し、かつその相手が誤っていることを前提にしている）。

7 こうやって形成された心性と重なるように、投票の上での判断の差が文化の優劣に転じ（自らの意思が否定されることは多数決のルール上では、常にあり得ることなのに）屈辱的結果と解釈された。多数派ではなかったというルール上の敗北でなく（cf: L'Hebdo 1992.12.7 のアンケート）「ある」仮想敵集団の不正が数の暴力で罷り通ったという、判断＝怒りが生まれた。これは自らを正義派だと称する主張と循環する。その根底にはつぎの暗黙の了解がある。すなわち、投票結果の少数意見＝民族の少数派＝マイノリティ＝被抑圧者という単純な図式。さらには、民主制をそもそも普遍的と考えることが錯誤で、「ケースによっては」自らに不利になる場合は否定される民主制があってもよいと考える意見すら生み出す余地につながり得た。

8 敵集団という幻影におびえた側は対抗的に集団に凝縮する（「ジュラ地帯創設」の提言などがその一例）。分断が双方向的客観的でないのは、L'Hebdo 1992.12.7 のアンケートで、「分断」についての認識についてドイツ語圏と大きな隔たりがあることでもわかる。

9 スイスを郷土にみたてる人々と、そのスイスを郷土にみたてる人々＝ドイツ語圏の人々、という図式から、「スイス」が「負」のアイデンティティの対象になってしまう人々がいる。すなわち、ドイツ語圏を抑圧集団だと思う人は、ドイツ語圏の人々はその上位集団、つまりヨーロッパが抑圧者と見えるだろうという屈折した類推をはたらかす人々がでてくる。その意味では、双方ともアイデンティティにたいする強迫観念をもっていることになる。

10 多数決原理を条件とする近代民主制が析出し得る民族主義というパラドックス。

あなたは EEE を受け入れますか

区別表と補足

〔 EEE 批准反対率，投票率，連邦加盟年度の古さ，ドイツ語への関与（ドイツ語を喋るか，逆にフランスに遠いか）の距離を偏差値換算し，その合計を出してみる〕

偏差値換算

▽はフランス語圏

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
ウーリ州	62.3	46.6	62.7	172	6	6
シュヴィーツ州	62.3	60.4	61.7	184	1	1
オプヴァルデン州	62.3	54.9	60.9	178	4	4
アッペンツェル・インナーローデン州	52.3	61.9	60.3	175	5	5
グラールス州	59.6	49.8	58.6	168	8	11
グラウビュンデン州	39.1	39.8	58.3	137	18	18
ニートヴァルデン州	62.3	60.4	57.4	180	2	2
トールガウ州	39.1	51.0	55.9	146	17	15
アッペンツェル・アウサーローデン州	52.3	55.3	55.7	163	11	10
ザンクト・ガレン州	39.1	54.1	54.5	148	16	14
ティチーノ州	39.1	41.3	54.5	135	20	20
シャフハウゼン州	52.8	63.6	54.6	171	7	7
ルツェルン州	60.4	52.7	54.1	167	9	9
アールガウ州	39.1	41.3	53.7	134	22	16
ゾロトゥルン州	53.7	60.9	52.2	167	10	9
ツーク州	59.6	68.0	51.4	179	3	3
ベルン州	59.5	46.1	49.2	155	13	13
チューリヒ州	59.6	52.7	48.6	161	12	12
バーゼル・ラント州	53.8	50.7	45.8	150	15	19
バーゼル・シュタット州	53.8	37.4	44.4	136	19	22
ヴァレー州	38.6	68.0	44.2	151	14	17▽
フリーブル州	53.7	41.7	38.7	134	22	21▽
ジュラ州	31.2	39.8	31.4	102	26	26▽
ジュネーヴ州	38.6	36.2	30.7	106	24	24▽
ヴォー州	39.1	32.8	30.6	103	25	25▽
ヌシャテル州	38.6	37.9	29.6	106	23	23▽
			平均	150		

- (1) 連邦加盟年の古さ = スイス連邦の自家意識をはかる指標
- (2) EEE 投票率 = 国事へのコミットの真剣さの指標
- (3) EEE 反対率 = EEE という「外」を排斥したい意識の度合
- (4) 合計 = スイスへの帰属度の高さ
- (5) 順位 1/26 ~ 26/26 位
- (6) ドイツ語への関与の度合いを入れた場合の順位。(同じ指数を持つ場合、ドイツ語圏への関与度を加味して修正値をだしてみる)



